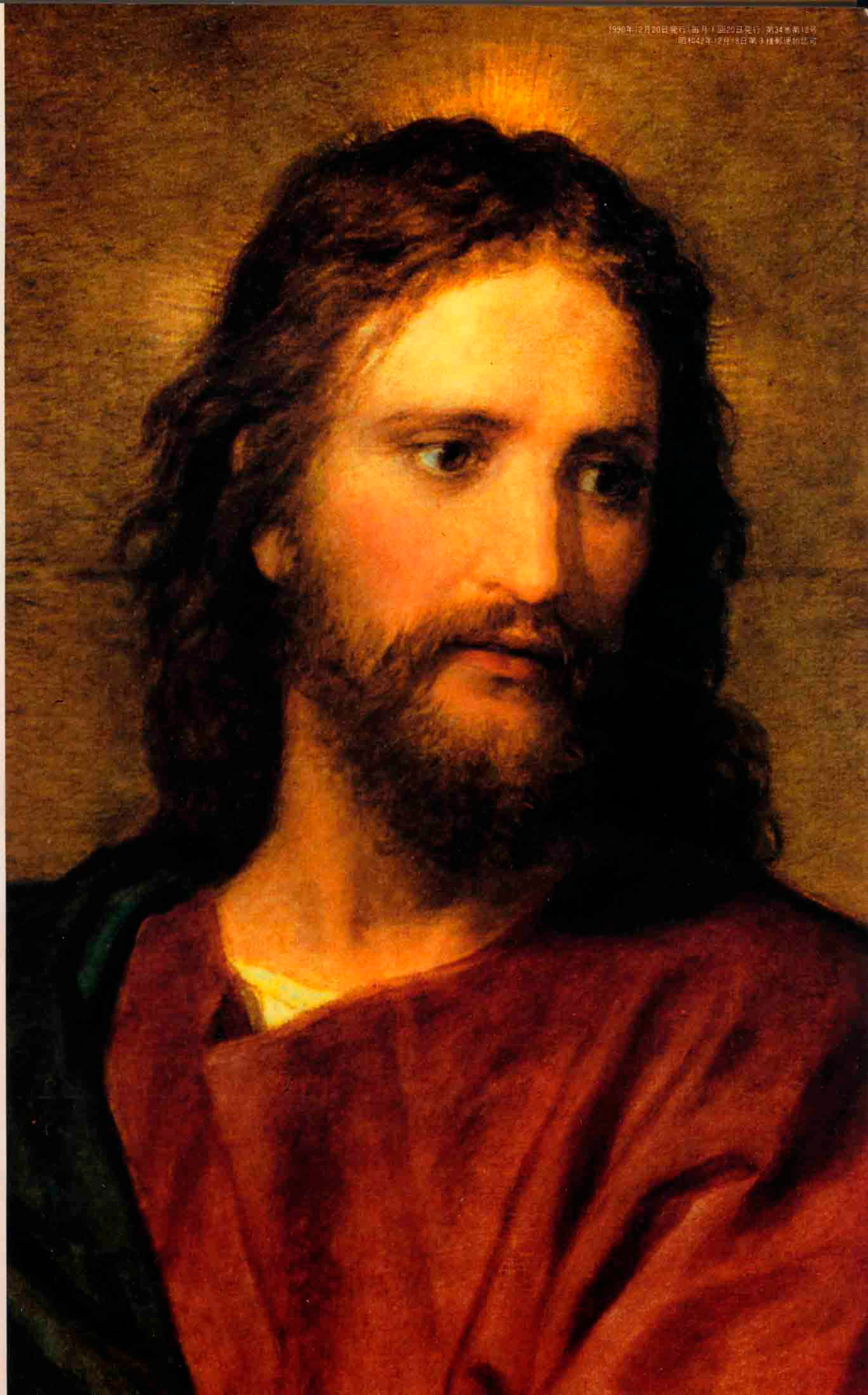


聖徒の道

12
1990



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、フランシス・M・ギボンズ、ジェフリー・R・ホランド
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

編集主幹：フライアン・K・クリー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集主幹補佐：アン・レムリン
編集主幹補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジェーン・アン・ケンブ、ティモシー・シェパード
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1990年12月号第34巻第12号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine
ITEM 90992 300
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1990 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へで送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106 東京都港区南麻布5-10-30 管理本部経理課 ☎03-440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213 川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理本部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

大管長会 クリスマスメッセージ

すべてのクリスチャンと共に、主イエス・キリストの降誕を祝うすばらしいクリスマスの季節がまたやって来ました。

予言者イザヤは幾世紀も後の出来事を見て、次のように書いています。「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。……その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」(イザヤ9:6)

ペテロは、救い主が地上でのみ業を終えられた後にこう言いました。「わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。」(IIペテロ1:16)

そして1世紀半前に、末の日の証人たちも証しています。「われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」(教義と聖約76:23)

私たちは、次の言葉を語られたのがイエス・キリストであることを証します。「もしわれに來らば永遠の生命を得。見よ、われは憐み深き手を汝らに向けて伸べたれば、すべてわれに來る者はわれこれを迎うる故に幸福なり。」(IIIニーファイ9:14)

このすばらしい時期にあたり、復活された主とその教えに自らの生活を捧げるよう、すべての人に再びお勧めしたいと思います。

大管長 エズラ・タフト・ベンソン
第一副管長 ゴードン・B・ヒンクレー
第二副管長 トーマス・S・モンソン

聖徒の道

1990年12月号



一般

1
大管長会
クリスマスメッセージ

3
大管長会メッセージ
イエス・キリスト
——救い主，贖い主
大管長
エズラ・タフト・ベンソン

10
クリスマスの思い出
エズラ・タフト・ベンソン大管長
L・トム・ペリー長老
M・ラッセル・バラード長老
ジェームズ・M・パラモア長老
アーデス・G・カップ姉妹

19
私の兄弟
ホルヘ・バルブエナ

20
「きて見なさい」
マービン・J・アシュトン長老

32
シンガポールの聖徒たち
リチャード・タイス

40
聖なる森
ドナルド・L・エンダース

46
思いがけない星
マーガレッタ・スペンサー

青少年

17
ぬいぐるみの救急隊員
ロレッタ・パーク

26
手話の歌
アニータ・M・フィー

28
霧の中の声
テリー・J・モイヤー

45
新年の決意を忘れないために

定期特別記事

9
モルモンメッセージ
主をあなた自身の
教師としなさい

25
家庭訪問メッセージ
聖典の学習を通して主を覚える

表紙の説明——

「キリストと金持ちの若者」(ハインリヒ・ホフマン画。部分)

こども

2
モルモン経物語
バベルをはなれるジェレドの民

4
イエス様におくる
クリスマスプレゼント
ドリー・ヒルドレス

7
歌
イエスさまおやすみ

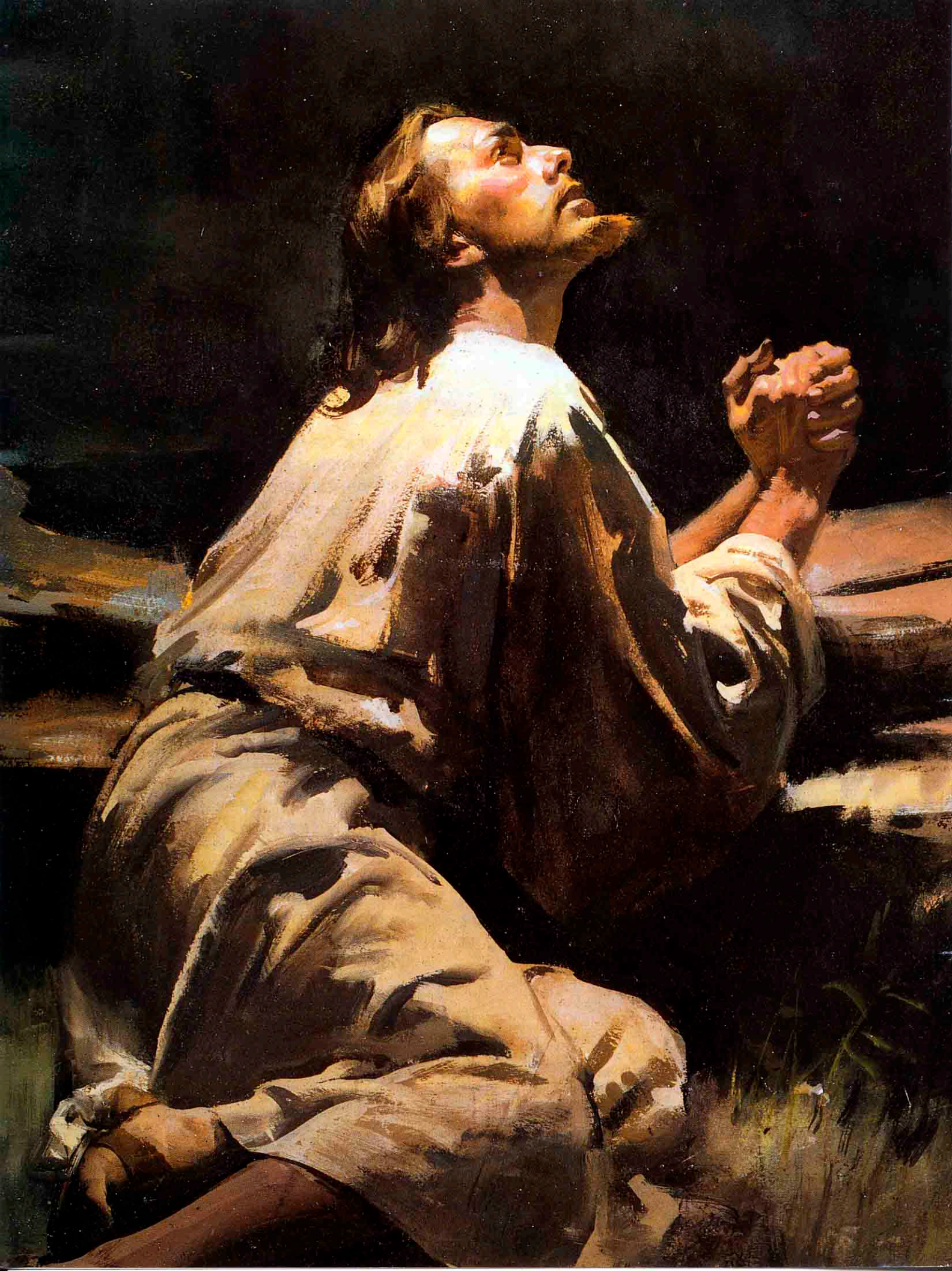
8
分かち合いの時間
キリストのみもとに来なさい
ローレル・ロールフィング

10
クリスマスメッセージ
大管長会から世界の子どもたちへ
心のおくり物

12
予言者をたたえよう
パット・グレアム

14
馬ごやののぞきばこ
エリス・ニーベン・ブラック

16
ザカリーの星
キャサリーン・M・ヘイズ



イエス・キリスト ——救い主，贖い主

大管長

エズラ・タフト・ベンソン

末

日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、神の御子としてまた全人類の救い主として受け入れている主イエス・キリストに、無条件の信頼を置く必要があります。この世の人々がイエスを人類の贖い主として受け入れ、その教えを守り、生活のあらゆる面で主を道として、真理として、命として信頼するようになるまで、私たちは将来について、またこの世で与えられるチャレンジに対処する力について、不安から解放されることはありません。

私たちの宗教の根本となる原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。なぜ私たちは信頼と希望をただひとりのお方に向けるのでしょうか。また、この世における平安と来るべき世における希望を得るには、なぜ主を信じる信仰が必要なのでしょうか。

この質問に対する答えにより、将来を勇気と希望をもって楽観的に見つめるか、あるいは疑惑と不安をもって悲観的に見つめるかが決まります。

イエス・キリストは、希望と確信をもたらし、世に打ち勝つ力と人の欠点をしのぐ力を与えてくださる唯一のお方です。

私が人々に伝えたいメッセージと証は次の事柄です。イエス・キリストは、希望と確信をもたらし、世に打ち勝つ力と人の欠点をしのぐ力を与えてくださる唯一のお方です。そしてその恩恵にあずかるには、主を信じ、主の律法と教えに従って生活しなければなりません。

では、なぜイエス・キリストを信じるのでしょうか。

イエス・キリストは昔も今も「全能の主」(モーサヤ3：5)です。イエスは生まれる前から選ばれたお方です。天地を造られた力あるお方です。すべてのものに命と光を与えられるお方です。

主のみ言葉は律法であり、それによって宇宙の万物が統治されています。主の創造物はすべて、主の無限の力に支配されているのです。

イエス・キリストは神の御子です。

イエスは定められた時に、天父を父としてその神性を失うことなくこの地上に來られました。ですから、この世の母から受け継いだ人間の特質と、永遠の御父から受け継いだ神の特質と力とを兼ね備えておられました。

イエスはその比類ない特質により、「肉体における神の独り子」という誉れある称号を受けられました。そして神の御子として、これまでだれひとり持ったことのない力と英知を受け継がれました。文字どおりインマヌエル、すなわち神が共におられるお方でした。(マタイ1：23参照)

イエスは神の御子として地上に送られましたが、父なる神の計画に従って、この世のあらゆる苦難と艱難を受けなければなりません。主は「誘惑を受け……飢えと渇きと疲労とを経験」(モーサヤ3：7)されることになったのです。

天父のすべての子供たちの贖い主としての資格を得るには、神のあらゆる律法に完全に従わなければなりません。イエスは天父のみこころにみずから従うこと

により、「恩恵に恩恵を加えられ」、ついに神の力の「完きを受け」られました。すなわち、「天地両つながらに於けるあらゆる権能を受け」られたのです。(教義と聖約93：13, 17)

私たちが神の御子としてあがめるお方についてこれらの真理を知れば、主が病人を癒し、あらゆる病気を治し、死人を生き返らせ、自然にまで命令を下す力を持っておられた理由が、容易に理解できます。イエスに追い出された悪霊でさえ、イエスに従い、イエスが神の御子であることを認めました。

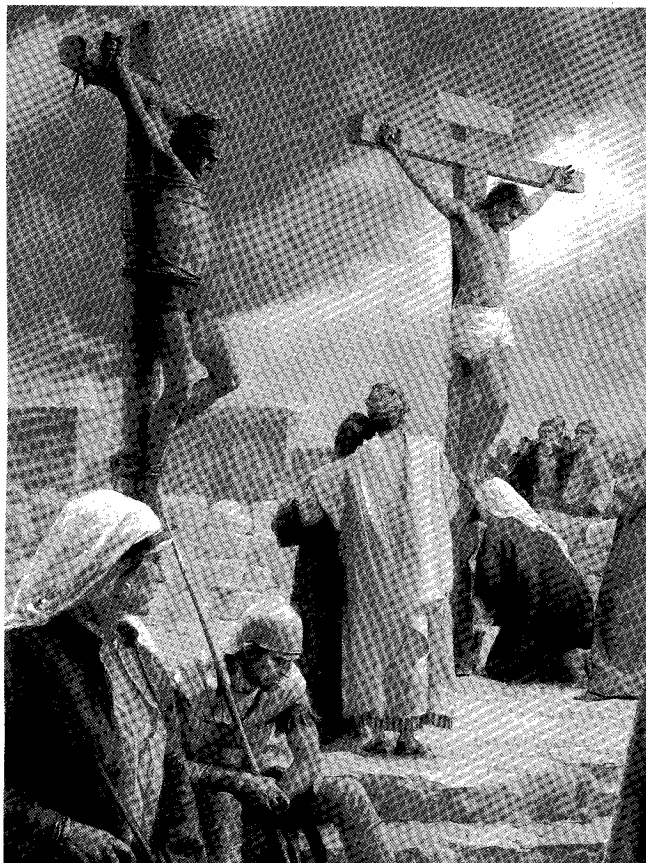
イエスは偉大な立法者として、天父のすべての子供たちが祝福を受けられるように、律法と戒めを与えられました。確かに主の律法は、かつてイスラエルの家と交わされたすべての誓約を成就していました。イエスは次のように言うておられます。

「見よ、われは律法にしてまた光なり。われにすがりて終りまで堪え忍べ。然すれば汝らは必ず生く。終りまで忍ぶ者にわれは永遠の生命を与えらばなり。」(IIIニーフアイ15：9)

イエスの律法が要求したことは、いかなる生活を営む人も、悔い改めて主のみ名によりバプテスマを受け、罪を洗い清める力として聖霊を受けることでした。この律法に従えば、裁きの日に主の前に罪なき人として立つことができます。そのような人々は堅固な土台の上に家を建てた人に似ています。「地獄の門はこれらの者に勝つことを得ず」(IIIニーフアイ11：39)と記されているとおりです。

私たちは主を「救いの岩」(IIニーフアイ4：30)としてほめたたえます。

私たちのためにイエスがしてくださったことを理解し、感謝の心を持つには、以下の大切な真理を思い起こす必要があります。



イエスは天父のみこころを行なうためにこの地上に來られました。

全人類の罪を負うことを前もって知っておられました。ご自身が十字架にかけられることを知っておられました。

人類の救い主、贖い主となるためにお生まれになりました。

イエスは神の御子であり、神の力を持っておられたので、ご自分の使命を果たすことができました。

私たちを愛しておられたので、ご自分の使命を進んで全うされました。

道に迷い墮落した状態から人類を贖う力を持つ人や、みずから進んで命を捨て、それによってすべての人に復活をもたらすことのできる人は、イエス以外にいませんでした。

イエス・キリストだけが、贖いという愛の業を進んで全うすることができました。私たちは、イエスが贖いの業を成就された方法については、この世で知ることはできないかもしれません。しかしその理由については、必ず理解しておく必要があります。

イエスの行ないはすべて、私たちに対する思いやりと限りない愛に基づいています。イエスは言われました。

「見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの

私たちは、イエスが贖いの業を成就された方法については、この世で知ることはできないかもしれません。しかしその理由については、必ず理解しておく必要があります。

苦しみをわが身に受けたり。……

その苦しむたるや、われ神、すなわちすべての^{うち}中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と^{また}両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。」(教義と聖約19:16, 18)

救い主は、その生涯に象徴されているように、天父のみこころに従って、苦きさかずきから飲まれました。

悔い改めた人々が苦しむことのないように、ゲツセマネですべての人の苦しみを受けられました。

不平を言ったり報復をしたりせずに、敵からの辱めや中傷を受けられました。

そして最後に、むち打ちに耐え、十字架という残酷なまでの恥辱に耐えられました。それからようやくご自身で命を捨てられたのです。主は次のように言われました。

「だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」(ヨハネ10:18)

イエスは「よみがえりであり、命である」(ヨハネ11:25)お方です。

イエス・キリストは神すなわち神の御子であられたので、ご自身の命を取り戻す力を持っておられました。死に打ち勝つ力がイエスにあったからこそ、全人類は復活できるのです。「わたしが生きるのです、あなたがたも生きるからである。」(ヨハネ14:19)

私たちはイエスのみ名を、またその行ないを表わす神聖な称号を、どれほど敬虔に扱っていることでしょうか。

イエスは偉大な模範を示されました。

イエスは私たちの天父に完全に従って、どうすれば世

主を信じる信仰とは、
たとえすべてのことを
理解していなくても、
主がすべてご存じであると
信じることです。
ですから私たちは次の主の
勧告に
従わなければなりません。
「何を^{おも}うとも、
^{ねんねん}念々われを見るべし。
疑うなかれ、
おそるるなかれ。」
(教義と聖約 6 : 36)

の事を捨てて正しい優先順位を定めることができるか示してくださいました。

また私たちを愛しておられるので、どうしたらつまらない欠点を克服して、周囲の人々に愛を表わすことができるか教えてくださいました。

イエスは命のパン(ヨハネ 6 : 35参照)です。

断食と祈りと奉仕によって、「人はパンだけで生きるものではなく」(マタイ 4 : 4)、神のみ言葉によって養われなければならないと教えられました。

イエスは「罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ」(ヘブル 4 : 15)しました。ですから、「試練の中にある者たちを助けることができ」た(ヘブル 2 : 18)のです。

イエスは、「平和の君」であり、大いなる慰め主です。

イエスは、悲しみや罪で刺し貫かれて張り裂けんばかりの心を慰める力を持っておられます。人の力では得られない特別な平安をもたらしてくださいます。イエスは次のように言われました。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14 : 27)

イエスは良い羊飼(ヨハネ 10 : 11参照)であります。

イエスは神がお持ちの神聖な属性をすべて備えておられます。徳高く、忍耐強く、親切で、堅忍、柔和、温情、愛にあふれたお方です。私たちが弱くこれらの特質に欠けているならば、イエスはいつまでも私たちに強め、その欠点を補ってくださいます。

イエスは靈妙なる議士(イザヤ 9 : 6 参照)であります。

苦痛、無力、不完全、精神的な欠陥、罪など、主は人間の陥るあらゆる状態を理解し、一人一人に愛の手を差

し伸べてくださいます。

イエスは、今日でもこう言っておられます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11 : 28)

イエスは私たちの助け主、仲保者、裁き主であられます。

イエスは神ですから、正義と憐れみを備えた、完全に公平なお方です。ですから私たちに弁護すると同時に、私たちを裁いてその行く末を定めることができるのです。

主を信じる信仰とは、イエスが生きておられることを、単に認めるだけのことではありません。それは信仰を告白する以上のことなのです。

イエス・キリストを信じる信仰は、主を完全に信頼することから成り立っています。主は神として、無限の力と知恵と愛を備えておられます。人間の問題で主に解決できないものはひとつもありません。イエスは「一切これらのものの下に身を落した」(教義と聖約 122 : 8)ので、どうしたら私たちが日常の問題を乗り越えることができるのか、知っておられるのです。

主を信じる信仰とは、たとえすべてのことを理解していなくても、主がすべてご存じであると信じることです。ですから私たちは次の主の勧告に従わなければなりません。「何を^{おも}うとも、^{ねんねん}念々われを見るべし。疑うなかれ、おそるるなかれ。」(教義と聖約 6 : 36)

主を信じる信仰とは、主がすべての国と民を治める力を持っておられると信じることです。イエスはあらゆる悪を阻む力を持っておられます。万物は主のみ手の中にあります。この地球は主の正当な所有地です。それにもかかわらず、そこに悪が入ることを許しておられるのは、私たちが善悪の区別を見極めることができるようにするためです。

イエスの福音は、人間のあらゆる問題や社会の病癥を



かんべき しょほうせん
治す完璧な処方箋です。

しかしそれは生活の中で応用されて初めて効果を表わすものです。ですから、私たちは「キリストの言葉をよく味わう」必要があります。「それはキリストの言葉は、あなたたちのしなくてはならないことをみな教える」から(IIニーファイ32:3)です。

主の教えを実行しない限り、信仰を示していることにはなりません。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。……自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22:37, 39)この教えにすべての人が従ったら、世の中はどれほど変わることでしょ

か。
今日、個人や地域社会や国が様々な問題に直面し、窮地に陥っています。では「どうしたらよいのですか」という質問に何と答えればよいのでしょうか。イエスは簡単な処方箋を与えておられます。

「神を信ぜよ、神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることとを信ぜよ。また、人間は主の悟りたもうこととことごとくは悟れないことを信ぜよ。

重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくてはならないことを信じ、神がお前たちを救したもうように真心から祈れ。もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ。」(モーサヤ4:9-10)

私たち教会員は、「かつてこの地上を歩まれた唯一完全なお方、罪のない人の子イエスを理想とする義務があります。

気高さの最高の模範
神のような属性
完全な愛

贖い主

救い主

永遠なる父の汚れなき御子

光であり、命であり、道であるお方。」(デビッド・O・マッケイ「インブループメント・エラ」1951年6月号, p.478)

私は全身全霊を込めて、イエスを愛しています。

私はへりくだって証します。イエスは今でも、パレスチナのほこりだらけの道を歩まれた時と同じように、愛と恵みに満ちた主です。そして地上の僕たちと親しく交わっておられます。私たち一人一人のことを心にかけ、愛しておられます。これは確かなことです。

イエスは主として、救い主として、贖い主として、また神として、今日も生きておられます。

神の祝福があつて、私たちがイエスを信じ、受け入れ、敬い、完全に信頼し、イエスに従うことができるように、へりくだりお祈りします。

ホームティーチャーへの提案

1. 私たちの宗教の根本となる原則は、主イエス・キリストを信じる信仰である。
2. 主を信じる人は、勇気と希望を持って将来を楽観的に見つめることができる。
3. イエスは創造主であり、また、聖なる力を持ちたもう神の御子、たぐいなき贖い主、復活の主、すべてのことにおける偉大な模範、慰め主、靈妙なる議士、助け主、仲保者、裁き主であるがゆえに、私たちに力と確信とを与えてくださる。
4. 主を信じる信仰とは、主を完全に信頼することである。主の力、知恵、愛に全幅の信頼を置くのである。
5. 主の福音は、生活の中で応用されて初めて効果を表わす。

主をあなた自身の教師としなさい



(マタイ5-7章参照)

ORIGINAL AT THE CHAPEL OF FREDERIKSBORG CASTLE, DENMARK. USED BY PERMISSION OF THE FREDERIKSBORGMUSEUM


クリスマスの思い出

最高のクリスマスプレゼントは、包装紙で包めるものではありません。デパートで売っているものでもなく、お金で買えるものでもありません。年月を経るにつれて一層輝きを増し、それが春であっても夏であっても秋であっても、もっと良い人になりたいという気持ちを強めてくれるもの、それがクリスマスの思い出なのです。今月号では、教会の5人の指導者にクリスマスの思い出について話してもらいました。



喜びの再会

エズラ・タフト・ベンソン大管長



1944年に撮影されたこのベンソン家族の写真は、ソルトレークシティの新聞に掲載された。家族全員と一緒に過ごすクリスマスは、ベンソン大管長にとって、農場で家族と共に過ごした少年時代のクリスマスの思い出に通じるものがある。

1923年に最初の伝道から解任された私は、すぐにアイダホ州ホイットニーにある自宅に戻りました。クリスマスイブのことでした。10人の弟や妹たちとの再会、とりわけ両親との再会は、末日聖徒のいわば理想とも言える家庭に帰って来たこともあって、本当にうれしいものでした。

両親はいつも子供たちのために、それぞれのいすに靴下をぶらさげ、そのいすの上や、下や、その近くに、決して高価ではありませんがプレゼントを置いてくれたものです。

しかし、その年のクリスマスイブには父も母も私を寝かせてはくれませんでした。今でもそのときのことは忘れません。その晩は夜を徹して語り合いました。実際、寝室へ行くことすらしませんでした。私たちは、農家だった我が家の穀物倉庫やそのほかの場所へ行って、愛情深い両親が子供たちに見つからないように隠しておいたプレゼントを取り出してきました。この作業が終わったころには、夜もだいぶ更けていました。残った時間は、また3人で語り合いました。父と母は、私の留守中、子供たちが一人一人どれほど成長したか話してくれ、私は2年半にわたるイギリスでのすばらしい伝道について報告したり、両親の質問に答えたりしました。忘れられない夜でした。両親を愛する私の気持ちが、あれほど高まったのも、あの晩が初めてのことでした。

クリスマスの朝は、子供たちはいつもより早く起きていいことになっていました。何時だったかは覚えていませんが、確か午前5時ではなかったかと思います。私の記憶に間違いがなければ、弟や妹は皆、まず台所へ行ってミルクを一杯飲み、バターとハチミツを塗ったパンを一口食べると、居間へやって来ました。そして、自分の靴下のところにあるプレゼントを手にとると、サンタクロースからもらった贈り物に大喜びしたものです。喜びにあふれた朝の光景でした。大喜びする6人の弟と4人の妹。子供たちがクリスマスの精神を存分に味わう様子を見て、家族はひとつに結ばれていると実感する両親。そんな弟や妹たちを誇らしげに見つめ、また気高い両親の愛に満ちた表情を見つめて、私は涙を抑えることができませんでした。



「サンシャイン」 クリスマス

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー長老

何年も前のことですが、あの悲惨な第二次世界大戦の直後、私は進駐軍の一員としてある国に駐留することになりました。上陸後、自分たちの統制下にある人々を深く愛し、関心を寄せるようになるのに、それほど時間はかかりませんでした。中でも青少年や子供たちは特別でした。私たちは、小さな子供たちが食料を求めてごみ箱をあさり、生きるのに必死になっている姿を何度も目にしました。その姿に心を痛めた私たちは、そうした子供たちに何かもっと役に立つことがしたいと考えようになりました。そこで仲間で募金活動を始め、また戦災孤児のために進んで孤児院を開設しようと考えている地元の宗教団体を探し出しました。また皆でできるだけ時間をやり繰りして、施設の改修の手伝いをしたり、必要な運営資金の捻出に協力したりもしました。

クリスマスが近づくと、故国の家族に手紙を書いて、今年は私たちのためにプレゼントを送るのではなく、孤児院にいる子供たちのためにおもちゃを送ってほしいと依頼しました。兵士の家族からは信じられないような反響がありました。それぞれの家庭から毎日のようにおもちゃが送られてきたのです。

クリスマスツリーに使いそうな木も見つけてきました。けれどもクリスマスらしいデコレーションは見つかりません。するとひとりの女性が、正方形の紙から鶴を折る方法を教えてくれたため、この折り鶴で、ツリーの大部分を飾ることになりました。プレゼントの包み紙は、ほとんどが古新聞でした。私はあの子供たちと過ごしたクリスマスイブのことを忘れることができません。大部分の子供たちにとって、クリスマスツリーを見るのも生まれて初めての経験であったに違いありません。

私たちは皆で、子供たちにクリスマスの歌を歌って聞かせました。でも、うまくはありませんでした。子供たちは、お返しに私たちに聞かせるために何週間も練習してきた英語の歌を歌ってくれました。それはクリスマスの歌ではありませんでしたが、本当に美しい歌でした。「ユー・アー・マイ・サンシャイン」を歌ってくれたのです。そのクリスマスイブ、私たちはその子供たちの心に強い感動を覚えました。とりわけ、自分たちの家族から送られてきたプレゼントを開けるときは、私たちの心も躍りました。何年間もおもちゃなどもらったことな



ペリー長老は戦時中、軍務に就いていた。クリスマス
のとき、長老は友人たちと一緒に孤児の世話をし、おも
ちゃを配るため、自分たちあてのプレゼントも寄付し
た。

い子供がほとんどだったのでしょ。

このクリスマスは私にとって忘れられないものになり
ました。このとき、このかけがえのないクリスマスの本
当の意味を学んでいたからです。この人生で私たちが味
わえる最大の喜びとは、与えること、つまり、だれかほ
かの人の生涯にささやかな喜びと幸福とをもたらすこと
にある、ということ。

祖父の思い出

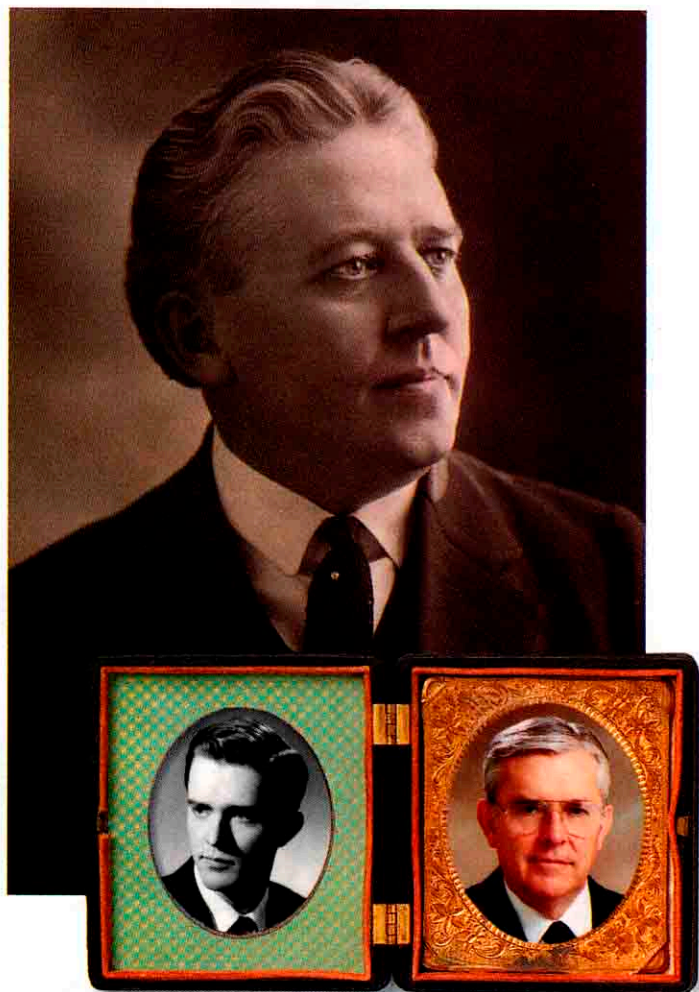
十二使徒定員会会員

M・ラッセル・バラード長老

私のまだ小さいころの最も温かい思い出のひとつは、毎年クリスマスの朝になると、ソルトレークシティのバトラー通りにある私たちの家に、祖父母が訪ねてきてくれたところのことです。祖父のメルビン・J・バラードは、私が10歳のときに亡くなりました。私は、祖父が教会の中でも非常に重要な人物であることは知っていましたが、主イエス・キリストの使徒であることがどういう意味を持っているか、ということにはわかりませんでした。私にとっては、普通のおじいさんであり、その祖父が私たちの家を、特にクリスマスの朝に、訪ねてくれるのをいつも首を長くして待っていたものでした。

中でも、祖父の亡くなる1、2年前のクリスマスの朝のことは、今でも記憶に残っています。私の父と母は、祖父母に旅行かばんを1組プレゼントしました。このクリスマスプレゼントは、当時の私から見ても、まさにふたりにぴったりのものでした。というのも、祖父は、まるで家にいることがないのではと思われるほど、年中旅をしていたからです。

祖父母と一緒に過ごした、あの特別なクリスマスの朝のことを考えるたびに、十二使徒評議員会の一員となった今、特別な温かい思い出がよみがえってきます。そして祖父母と過ごしたあの特別なクリスマスの朝のことを、改めて深い感謝の気持ちで思い起こしています。今、自分の孫たちが私を訪ね、私が孫たちを訪ねるにつけ、私が亡くなった後も、いつまでも孫たちの心に残る思い出を作ることができればと願っています。

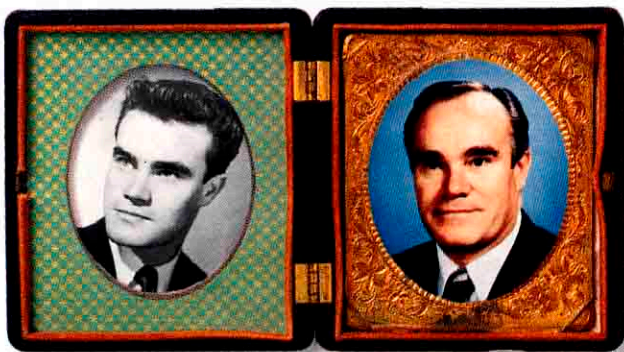


バラード長老は、十二使徒定員会の一員であった祖父のメルビン・J・バラード長老がクリスマスの朝に訪ねてくれたことを、大切な思い出としている。





ベルギー・ブリュッセル伝道部で迎えた最初のクリスマスの日、パラモア長老とその家族は、自分たちの持ち物を集め、食料品をプレゼント用の箱に詰めると、困っている家族のもとへ持って行った。パラモア家族はそれまでになかったほど、与えることの意義を知った。



はるかに大切な贈り物

七十人会長会

ジェームズ・M・パラモア長老

もう何年も前のことですが、私たち家族にはベルギーとフランスで伝道する機会が与えられました。私たち夫婦には、伝道地で生まれたばかりの赤ん坊も含めて、6人の小さな子供がいました。クリスマスの前に、私たちは故国の家に手紙を書いて、子供たちのために衣類を少しとクリスマスのプレゼントを送ってくれるよう

依頼しました。ところが残念なことに、クリスマスまでにその荷物が届かなかったのです。

クリスマスイブの晩、家族で一緒に座って、新約聖書や救い主の誕生の話を読んでいても、心の中には何か寂しいものがありました。プレゼントの数も少ないであろうと思われたからです。しかし、私たちが天のお父様からいただいた贈り物、すなわち愛する御子イエス様の話を読んでいたとき、この町にも助けを必要としている人々が大勢いることに気づきました。こうして私たちは急いで自分たちの持ち物を集め、食料品をプレゼント用の箱に詰めると、そのような家族のもとに出掛けたのです。

そろってその家族の住む小さなアパートを訪れ、クリスマスの歌を歌い始めると、私たちの心は、いまだかつてなかったほど、満たされた思いになりました。与えることの意義を知り、受ける人々の心に触れ、そして天のお父様のみたまにも触れることができたのです。その年のクリスマスイブは、故国の家から送られてくるはずの贈り物に比べて、はるかに大切な贈り物を得て家に帰りました。そうです。本当の贈り物がただひとつあるとすれば、それは自分を捧げることなのです。

ベルはなお鳴り響く

中央若い女性会長

アーデス・G・カップ姉妹

何年前か前、クリスマスの直前のことでしたが、めいのシェリーが、母親の手をしっかりと握って、まじめな表情でこう尋ねました。「もう1年だけ、サンタクロースが来ることを信じていい?」

何年前かのその出来事が忘れられず、以来私たちの家族には新しい伝統ができました。毎年、クリスマスイブには家族でツリーの周りに集まります。照明を暗くし、赤々と燃える暖炉の火の明かりの中で、私たちはもう一度質問を繰り返すのです。1年中で最も大切な質問、「もう1年、私たちは信じてもいいのでしょうか。」子供のころに信じていたように、サンタクロースの存在を信じてもいいのだろうか、ということだけではありません。もっと大切なのは、現にそこで誕生日のお祝いをしているイエス・キリストが、私たちの主として救い主としてお生まれになったのだという教えを、信じ続けていいのだろうか、ということなのです。救い主の^{あがな}贖いを、そして救い主の復活を私たちは信じているでしょうか、「私に従って来なさい」という主の招きに真剣にこたえようとしているのでしょうか——そういう問いかけなのです。

もちろん、私たちは本当は1年だけ決心をするわけではありません。救い主に永遠に従うという誓約を交わしています。しかし、私たちの生活は1日単位で、1週間単位で、1カ月単位で、そして1年単位で進んでいきます。そしてクリスマスは、翌年のことを真剣に考える時期であり、また主の弟子として生活する決意を、改めて固める時期なのです。

話し合いと決意の表明が終わると、家族のひとりが、クリス・フォン・オルズバーグという人の書いた「北極からの特急便」という物語を読みます。この物語は、信仰を持つ人はいつでも銀のベルの澄んだ響きを聞くことができるという話です。

この物語を聞いたあとで、私たちは皆、赤いサテンのリボンに結びつけた小さな新しいベルをもらい、クリスマスの期間中、首にかけておきます。私たちが真心から信じ、もう1年その信じる場所に従って生活するよう努力するという証として、またその決意の表明として、その澄んだ音色に耳を傾けるのです。そして暖炉の火が小さくなったころ、聖書に記録されているあの輝かしいクリスマスの物語を読みます。ルカは救い主の降誕を告げる天使の言葉をこう記録しています。「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主^{すくいぬし}がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。」(ルカ2:11)私たちはそれを信じています。□



毎年、カップ姉妹の家族は、一緒に集まって救い主の誕生を祝うとともに、救い主の生涯とその教えに従って生活しようという決意を、改めて固めている。





ぬいぐるみの救急隊員

ロレッタ・パーク

ユタ州のレイトン市に住む5歳のウエスレー・ラーセン君は、病院のベッドに横になって、足にあるたくさんの傷が回復するのを待っています。病室にはたくさんの風船やお見舞いのカード、それに大きな動物のおもちゃがいっぱいです。でも彼の一番のお気に入り、手作りの小さな茶色いくまのぬいぐるみです。それは救急隊員のおじさんからもらったものでした。ウエスレー君は、それがユタ州のウエストポイントステーク部の若い女性からの贈り物であることは知りませんでした。

ウエスレー君の話によると、救急車で病院に運んでくれた救急隊員のおじさんが「よく頑張ったね」と言って小さなぬいぐるみけんいんをくれたのです。数週間の牽引による治療の間さえ、ウエスレー君はこのぬいぐるみを片時も離そうとはしませんでした。

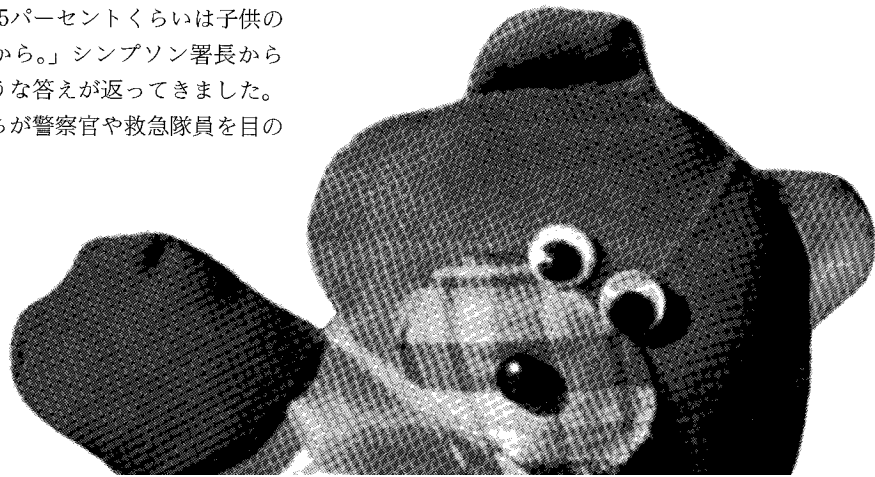
救急車で運ばれる子供たちを慰める

このぬいぐるみは、ウエストポイントステーク部の若い女性会長のミッキー・アダムス姉妹と第二副会長のアンニス・ニクソン姉妹の企画によるものです。あるとき新聞で、このような奉仕を行なっている他の公共団体のことを読んで彼女たちは、地元の郡警察署の署長であるK・D・シンプソン氏に郡警察署の救急隊員とパトロール部隊にくまのぬいぐるみを置いてみてはどうかという相談を持ちかけました。

「それは良い考えですね。きっと役に立ちますよ。この部署にかかってくる電話の45パーセントくらいは子供の事故ですから。」シンプソン署長からはこのような答えが返ってきました。

子供たちが警察官や救急隊員を目の

若い女性たちは、事故に遭った幼い犠牲者を慰めるためにぬいぐるみを寄付することにしましたが、本当にあげたものは愛だということに気づきました。





ニコルは、事故の時から手術を受ける直前までぬいぐるみをしっかり抱いて離しませんでした。このぬいぐるみの子ぐまは、痛みや恐怖の中にある子供たちにとってまさに救い手となっています。

前にしたとき、どんなに怖がるかを知っていたステーキ部の若い女性たちは、子供たちの痛みが紛れるようなものを贈ろうと決めました。「抱きしめたり、かわいがったりできるものをプレゼントできたらと思ったのです」とアダムス姉妹は言っています。

その結果ステーキ部の若い女性の集会で生地を切ったり、縫ったり、綿を詰めたりという作業が始められ、200個以上もの手作りのぬいぐるみが作られました。

ビーハイプクラスのローリー・エルスワース姉妹はこう言っています。「最初は慣れるまで大変でしたが、自分が作ったもので、子供たちの痛みが紛れると思うとやりがいがありました。」

夕方には早くも90個ものぬいぐるみができあがりしました。若い女性たちは、作りかけのぬいぐるみをそれぞれ家に持ち帰って完成させました。

身長20センチのぬいぐるみを作るために、ステーキ部の会員がはぎれを寄付してくれました。また中に詰める綿を寄付してくれた人もいました。

警察署には100個のぬいぐるみが寄付されました。残りの100個は地元の病院に寄付されてクリスマスツリーにつり下げられ、子供たちはひとつずつ自分の気に入ったものを選ぶことができました。

救急隊員が10歳以下の子供の救助にあたる時は、必ずこのぬいぐるみをあげるようにします。それは今では、警察署の方針にまでなっているのです。

シンプソン署長はこのように語ります。「隊員は2、3回ぬいぐるみをあげると、それが子供を落ち着かせるのにとっても効果のあることがわかりました。今では救急隊員も警察官も、子供を扱うときには、このぬいぐるみをいつも

頼りにしています。」

しかし、ぬいぐるみをもたらるのは子供だけではありません。発作で苦しむ80歳のおばあさんにあげたこともあります。「彼女を落ち着かせるには、これしかありませんでした」とシンプソン署長は言っています。「彼女はぬいぐるみをしっかり抱きしめて離しませんでした。」

飛行救急隊員でもあるシンプソン署長は、子供たちにとってぬいぐるみがどんなに大きな慰めになるものかを、自分の経験を通してよく知っています。12歳になるニコル・ワレスは、ヘリコプターである病院から別の病院へ運ばれることになりました。自動車事故で腎臓と肝臓に傷害を受け、内出血がひどかったからです。しかし、ヘリコプターで病院から病院へ移る間、彼女は片時もぬいぐるみを離そうとはしませんでした。そして手術を受ける直前までずっと抱いていたのです。

事故についてニコルはこのように言っています。「車がひどく壊れて、救急隊の人が後ろの座席を取りはずして、窓から出してくれるまで動くこともできませんでした。救急車に運び込まれると、このかわいいぬいぐるみをもたらったのです。」彼女は続けて言っています。「それですっかり怖くなくなりました。ぬいぐるみを抱きしめると、もうそんなに痛みを感じなくなりました。病院では、いつもベッドと一緒にいたんです。」

ビーハイプクラスのジュニファー・テクマイヤー姉妹は次のように言っています。「救急車で運ばれる子供たちに何かをしてあげられるのはとても良いことだと思いました。しかし本当に大切なことは、私たちの愛を伝えることができたということです。」□

私の兄弟

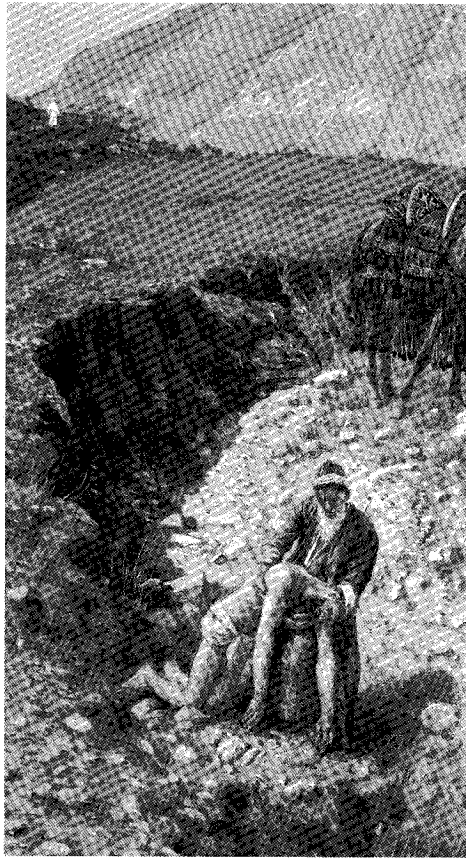
ホルヘ・バルブエナ

病院の救急治療室に入って来たとき、彼はただの浮浪者にすぎませんでした。体はやせ、背中は曲がり、傷だらけで、足を引きずりながらゆっくりと歩いていました。見えない目は自分だけの暗やみの世界をぼんやり見つめていました。みすぼらしい衣服をまとった体からは悪臭が漂い、あえてそばに近づこうという気にはだれもなれないほどでした。しかし、私は医者としての務めを果たさなければなりません。それで、私と一緒に来るように言いました。

診察している間に、その男は何度も何度も自分は病気で助けが必要なのだを繰り返すのです。病状をすべて訴えた後で、「私には家族もなく、寝たり食べたりできる家もありません」と吐き捨てるようにつぶやきました。気の毒に、と私は思いました。彼のような人が大勢いるのです。でも、私に何ができるというのでしょうか。

彼を治療しながら、神について話し合いました。彼は、イエス・キリストの教えが大切であり、私たちの人生に必要であることを理解しました。しかし、口では神を信じると言いながら、隣人に対する関心や憐れみを示そうとしない人々のことは理解しかねると言いました。彼には、神への信仰をはっきりと口にするとする知人が何人かいましたが、食べ物を分けてくれるように頼んでも、少しもくれようとはしなかったのです。

実際に救いの手を差し伸べてくれたのは、彼と同じくらい貧しい女性でした。その人は家族を養うために一生



空腹の貧しい盲人と語り合ったとき、
頭だけでなく心で救い主の教えを理解
することができました。

懸命働いていました。古着やぼろを集めて売っているのです。それでも、彼女は粗末な外壁の小さな自分の家で一緒に暮らすようにと伝えてくれました。それは本当に小さな家で、ハエやネズミもいました。しかし、そこでは彼を喜んで迎え入れてくれたのです。

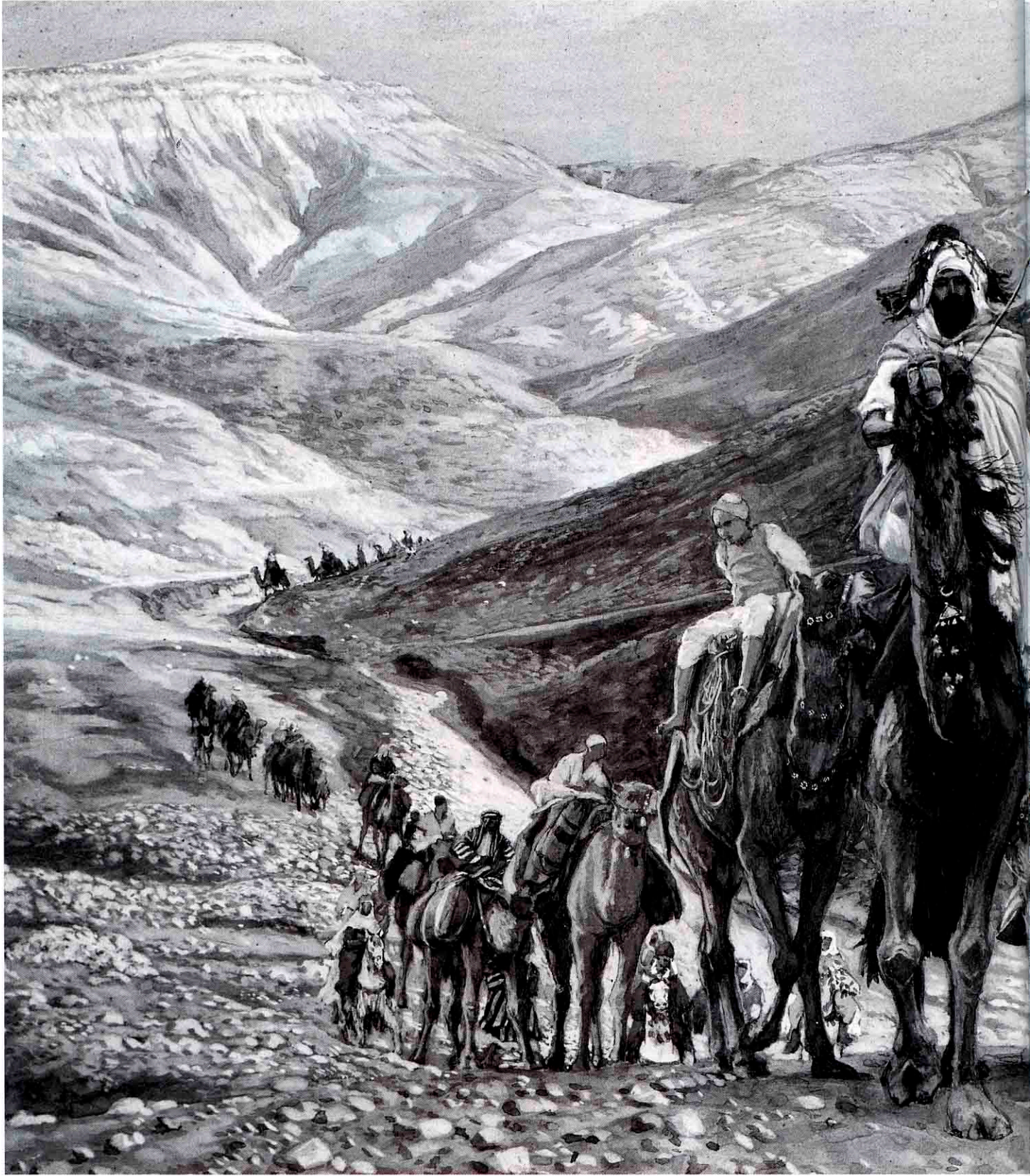
私たちは3時間ほど、散歩しながら語り合いました。彼の目は見えませんでしたが、心の目は開いていたのです。会話のほとんどは神に関することでした。「先生、あなたは神様を信じていますか」と彼が尋ねました。私は即座に、「ええ、信じています。だから、あなたは私の兄弟なのです」と答えました。考える間もなく口をついて出た答えでしたが、そう言ったとたん私の胸はいっぱいになり、その言葉が真実であることがはっきりとわかったのです。

話をするにつれて、彼に対する愛は次第に大きくなっていきました。兄弟であるとはどういうことかを理解し始めたとき、私は畏敬の念を覚えました。彼には人に与えられるものは何もないと私は決めつけていました。しかし、その人から教えを受けたのは、むしろ私の方だったのです。私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。私は彼にわずかな時間と少しばかりの食べ物をあげただけですが、彼は私に理解の目を開かせてくれたのです。

□

*ホルヘ・バルブエナ兄弟：ベネズエラのマラカイボ南ステーク部ラ・パスワード部所属。

「きて見なさい」



PAINTING BY JAMES J. TISSOT



十二使徒定員会会員
マービン・J・アシュトン長老

イエスはベツレヘムで生まれましたが、幼少のころナザレに住んだことから、後にナザレのイエスと呼ばれるようになりました。ガリラヤ湖に臨む山々の間には多くのくぼ地が存在していますが、イエスの育った小さな町ナザレも、そのようなくぼ地の中にありました。ナザレは、豊かさには縁がなく、尊敬すべき指導者にも恵まれず、人口もさほど多くない貧しい町でした。年若いイエスが成長し、教を宣べ伝えると、人々は「その言葉に權威があったので、……その教に驚きました。(ルカ4:32)

イエスを目にし、彼の語る言葉を耳にした人々の驚きは大変なものでした。その生き方と業には、人々を恐れさせ、戸惑わせ、そして、驚嘆させる力がありました。人々は、イエスの並々ならぬ能力、行ない、経歴について、好んで話題にするようになったのです。

イエスの弟子のひとりナタナエルがピリポに「ナザレから、なんのよいものが出ようか」と語ったときに、ピリポは「きて見なさい」と答えました。(ヨハネ1:46)この質問に対する答え

東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。」

羊飼いたちは「来て見る」ように招かれたのです。彼らはイエスの誕生を実際に目の当たりにし、恐れおののき、証し、そして歓喜の声をあげました。平和の君を見たからです。

は、今も当時も変わりません。イエスを知りたいと思う人は、来て見なくてはならないのです。

「来る」という言葉には、ある方向へ動く、近くに寄る、あるいは接近するという意味があります。「見る」という言葉には、目で知覚する、またはあることについて知識、認識を得る、という意味があります。

ルカによる福音書には、次のように書かれています。

「[マリヤは]初子を産み、布にくるんで、^{ういご}飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである。』

するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒にあって神をさんびして言った、

『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。』

御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは『さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか』と、互に語り合った。(ルカ 2：7-15)

羊飼いたちは、「来て見る」ように招かれたのです。彼らはイエスの誕生を実際に目の当たりにし、恐れおののき、証し、そして歓喜の声をあげました。平和の君イエスが布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見たからです。

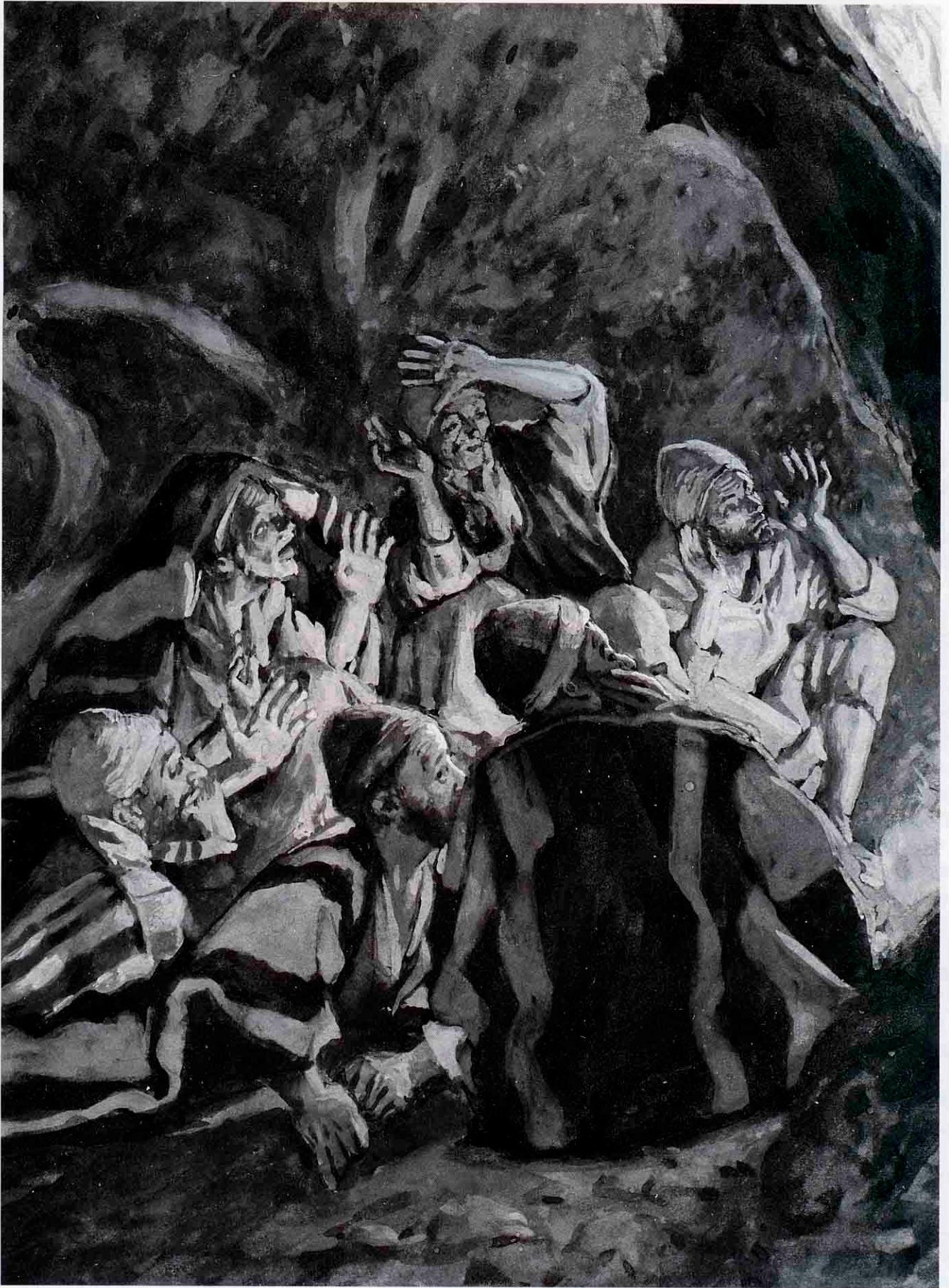
「イエスがヘロデ王の代に、ユダヤのベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、『ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました。』」(マタイ 2：1-2)

全世界の人々に私たちはへりくだり宣言します。「主がここにおられます。来て見てください。」

このクリスマスの季節に、私は「来て見る決意をする」ことについて話をし、贈り物に代えたいと思います。

次のようなことを口にしたがる人がいます。「私はもうだめです。」「この環境では無理です。」「だれも構ってくれません。」

最近のことですが、ある青年が、大きな苦難と深い絶望の中で次のように話していました。「ほかの人たちは勝手にクリスマスを楽しめばいいんだ。でも、ぼくは違う。ぼくには無駄なこと



PAINTING BY JAMES J. TISSOT

だし、もう何をしても手遅れなんだ。」

私たちはひとりで自分の殻に閉じこもって、文句を言うこともできれば、自分で自分の悲しみをさらに大きくすることもできます。また自己を哀れみ、教会や周囲の人々の欠点を探することもできます。そして孤立し敵意に満ちた人間になることもできるのです。

あるいはまた、来て見ることもできます。来て見て、そして知ることもできるのです。

このクリスマスの季節に、また、クリスマスが終わった後でも常に考えてほしいことがいくつかあります。

独りよがりや、独善、偽善、相手を見下す高慢、このような態度はたとえわずかであっても避けなければなりません。職場の同僚や教会員ではない人が、私たちの望ましくない振る舞いによって、次のような質問を投げかけることがよくあります。「この学校からどんな良いものが出るのでしょうか。この町からどんな良いものが出るのでしょうか。この周辺からどんな良いものが出るのでしょうか。このワード部からどんな良いものが出るのでしょうか。この家からどんな良いものが出るのでしょうか。」

このような質問に対して私たちはこう答えずにはなりません。「来て見なさい。来て私たちのことを知ってください。」

時として、私たちは次の真理を忘れることがあります。「われらは……す

べての人に善を行うべきを信ず。」(信仰箇条第13条)私たちは隣人に対してどれほど親切な態度で接しているでしょうか。教会員ではない人に対してはどうでしょうか。学校ではどうでしょうか。2番目に大切な戒めは、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」(マルコ12:31)です。これは今日も変わることはありません。

ほかの人を受け入れるためには、愛の原則に従わなければなりません。私の隣人とはだれを指すのでしょうか。イエスは、有名な良きサマリヤ人のたとえ話の中で、このことについて教えておられます。(ルカ10:29-37参照)今日の良きサマリヤ人とは、孤独な人々、内気な人々、少数派に属する人々、そして口には出さなくとも良い仲間に飢え渴いている人々、そのような人々の友人となる人のことだと言えるでしょう。

友人の輪を広げましょう。私たちが嫌い、理解しない人々にも礼儀正しい態度と愛を示し、友情を勝ち得ましょう。争いを避け、ほかの人たちが私たちのことをよく理解してくれるように働きかけるのです。彼らが来て見たいと思うようになるよう自分の生活を改善し、一層良い模範を示すようにしましょう。

私たちが「来て見る」という賜を受けるうえで天父の助けが得られるように祈ります。また、イエスがキリストであり、主の主、王の王であり、ベツレヘムの町の片隅でお生まれになった

救い主であることを知り、信じ、宣言する決意をするうえで天父の助けがありますように祈ります。イエスがどこで、どのような環境の下で生まれたかということは、イエスが何者であったかということに比べれば、実を取るに足りないことだったのです。

イエスが今も生きていること、イエスが私たちの救い主、友人、神の御子であること、イエスの教会、王国に今日だれもが入れること、これらのことを世に宣言するためには絶えざる信仰が必要です。神は実際に生きておられます。イエスは天父と共に住んでおられます。こういった真理を知るだけでなく、人々に宣言するためには自己訓練が必要ですが、神の愛と助けによって、すべて可能となり、私たちがクリスマスの真の意味を知り理解するにつれ、一人一人の上に平安と喜びがもたらされます。幸福を求めて旅をする私たちは、幾度も失敗をしたり、落ち込んだりすることもあります。そのような経験も「来て見る」という態度があれば、楽しい思い出や幸福な経験の前に影を潜めてしまうのです。

もしイエスを愛したいと思うならば、来て見てください。もしイエスを知りたいと思うならば、来て見てください。

ベツレヘムの、そして、ナザレのイエスは天父の独り子です。すなわち、私たちの^{あがな}贖い主、救い主、主キリストなのです。この真理を厳粛に宣言し、イエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。

聖典の学習を通して 主を覚える

「私の身も心も聖文を喜ぶので、私が心にそれをよくよく考えて……。」(II ニーファイ 4 : 15)

就 学前の3人の子供を抱えたゲリー・プリンリー姉妹は、何とか福音を実生活に応用し、子供たちを正しく育てたいと頑張っていました。しかし彼女は聖典を勉強する時間などはないと思ひ込み、こう考えていました。

「約束の地へのリーハイの旅など、私の抱いている問題とどう関係があるのでしょうか。わからず屋の2歳の子にシャワーをさせたり、4歳の息子におもちゃを片付けさせたりする方法が、モルモン経のどの章の何節に書いてありますか。ニーファイ人とレーマン人の間の次の戦争でどちらが勝つかということよりもっと大切な、心配しなければならない問題があるのです。」

しかし、彼女は扶助協会の霊的生活の教師に召されたときに、その疑問への答えを受けました。レッスンの準備に聖典を読みながら、多くの疑問の答えが聖典の中に書かれていることを知ったのです。そして子育てについても聖典の中に答えを見いだそうとし始めたのでした。

そのときのことを彼女はこう書いています。「モルモン経を読むのに目的が出てきたのです。子育ての例が出てくるたびに、私はその箇所を短い感想も交えて書き留めました。そして全部読み終えてから、見つけた例を、教わった原則やその原則の応用という点か

ら分類しました。」(『モルモン経——子育てのガイド』「聖徒の道」1989年8月号, pp.33-34)

祈りの気持ちを持って聖典を定期的に読むと、みたまの導きによって、自分の勉強と成長に役立つ聖句の内容をじっくりと考えるようになります。これを始めるためのひとつの方法は、何か具体的な必要や疑問、問題を見だし、それに適用できる聖句を探し出すことです。それによって私たちは「学問と利益になるように、すべての聖文を私たちのためと見立てる」ことができるようになっていきます。(I ニーファイ 19 : 23)

聖典は試練のときには慰めの源とも

ILLUSTRATED BY BETH M. WHITTAKER



なります。ヘーゼル・ハント姉妹の夫は、夫婦で信じるなら癒されるという祝福を受けて間もなく帰らぬ人となりました。夫の死後、ヘーゼル姉妹は自分に十分な信仰がなかったのではないかと悩み苦しみました。

彼女はホームティーチャーに尋ねました。「どうして夫が死んでしまったのか、理由を教えてください。」するとホームティーチャーは教義と聖約42章48節を彼女に示しました。「われにありて医さるべき信仰ありて、死の命を受けざる者は医さるべし。」

ヘーゼル姉妹は、「それはまさしく私の疑問への答えでした。そして天父のみもとへ戻る時が来たからこそ夫は死んだのだと納得することができました。」

主は何かして私たちに励まし、助け、慰めようとしておられます。祈りの気持ちを持って聖典を調べ、深く考えるなら、主は私たちの生活の中に喜びと平安をもたらし、試練を克服するための力を与えてくださることでしよう。

訪問教師への提案

1. 聖典の学習を通して自分の生活に変化が起きた経験について話し合う。
2. 定期的に聖典を学習する習慣を作るための方法について話し合う。
(『家庭の夕べアイディア集』[31106 300] pp.19-23, 179-80参照)

手話の歌

アニータ・M・フィー

ドナは内気な少女でした。それなのに、なぜ彼女は皆の注意を引くのでしょうか。

活発で外交的だった私は、10代の初めのころ、毎週日曜日になるといつもこのような疑問を感じていました。ドナ・キリアムは私と同じビーハイブクラスの生徒で、おとなしくてかわいらしい少女でした。両親は耳が不自由でした。そのためドナは手話を自由自在に使いこなし、大人たちは皆、その姿をとてもいとおしいと思っていました。若い女性の責任を受け、様々な機会に通訳をする彼女を見て母親たちは涙を流しました。私以外の人は皆深く感動している様子でした。

そのころの私はわがままで、注目の的になりたいと思っていました。でも、ドナと競っても無駄でした。控え目ながらもドナとその家族は目立つ存在でしたし、ワード部の会員たちもいつも彼らのことを心にかけていました。それにもかかわらず私は嫉妬心を抑えることができませんでした。

私の14歳の誕生日を迎えて1カ月後、母はひどい自動車事故に遭いました。命は助かりましたが、重傷でした。牽引のため1カ月半入院しなければなりません。事故が起きたのは11月で、母がクリスマスを病院で過ごすなければならないことが間もなく明らかになりました。家族の活動には母も一緒に加わることが不可欠でしたから、そうなると私たちもクリスマスを病院で過ごすなければならないということになりました。

私以外の家族の者は、このクリスマスに「特別な経験」として、あるいはむしろ成長するための機会として楽しみにしていました。でも私には、ひどくつまらないものに思っていたのです。

クリスマスイブの日、私は家族にとってはあまり靈性を高める存在ではありませんでした。病室の隅にひとり離れて、自己嫌悪を覚えながら座っていました。皆クリスマスプレゼントを開ける用意ができて、ただ黙ってお互いの顔を見ているばかりで、いつものように胸をわくわくさせたり、はしゃいだりする者はいませんでした。ちょうどそのとき、ドナが入ってきました。「こんにち

は、フィー姉妹」と私の母に向かって静かに言ったドナの後ろから、両親も入ってきました。「歌を歌おうと思ってちょっと立ち寄っただけなんです。」

私たちは皆驚いて見上げました。彼女の両親は耳が不自由なのに、どうして歌うことができるのでしょうか。私は興味をそそられて、プレゼントを脇に置いて頭を上げました。ドナに対して嫉妬心を感じていた私は、彼らが歌うのをあまりうれしく思いませんでしたが、とにかく聞くことにしました。

『聖し、この夜』を歌う彼らの静かな歌声を聞いていると、思いがけず私の内から熱い思いが込み上げてくるのを、抑えることができませんでした。同じように動く3人の手は、幼な子キリストと天の平安を語っていました。必死でこらえようとした私が私の目から涙がこぼれ落ちました。ベッドからは母のすすり泣く声が聞こえます。ドナの目にも涙があふれていました。私には自分がこれまでドナに対して不当な思いを抱いてきたことがはつきりとわかりました。

歌い終わると、彼らは手を下ろしました。私たちは皆感激のあまりにただお互いに見つめ合っていました。それから彼らは来た時のように静かに去って行きました。ずっと部屋の隅にいた私は、今わかったことについて考え込んでいました。「どうして私はこれまでドナに嫉妬していたのかしら。」ドナは特別な才能の持ち主でした。彼女たちは、私たちのクリスマスにみたまをもたらし、憂うつなクリスマスを新たな希望に満ちたお祝いの日へと変えてくれました。聖霊の力によって私は母がよくなることを確信し、また、私にも才能があるということがわかりました。

そのとき、私は病院のその部屋で、これからは自分自身の才能を生かし、ほかの人に嫉妬するのはやめようと決心しました。その決意をしてから、心に平安を見いだしました。頭の中ではあの歌声が何度もやさしくこだましていました。「聖し、この夜……。」

私の心はとても穏やかでした。□



霧の中の声

テリー・J・モイヤー

クリスマスイブのことです。ダン・ライテルはカリフォルニア特有の濃い霧の中を4時間半もひとりで車を走らせていました。この4時間半というもの、なかなか晴れそうもない霧の中を白地に緑のナンバープレートをつけた白い車の後についてずっと運転してきたのです。

ダンにとってこれほど疲れを感じたのは、伝道以来のことでした。しかしポケットにはダイヤモンドの指輪が入っていました。サンリアンドロで恋人が待っているのです。この指輪をカリーの指にはめるには、少なくともまだあと3時間かかることでしょう。

「長い夜になりそうだ。」そうつぶやきながらダンはほかの大勢のドライバーと同じく霧の中を走り続けました。

ダンは時間が少しでも早くたってくれればという気持ちで車のラジオをつけ、クリスマス音楽でも聞こうと思いました。夜になると車のラジオから、国中のいろいろな放送局からの電波が流れてくるときもあれば、雑音しか入らないときもあるのはなぜだろう。おかしいことだな、と思いながらラジオを止めました。

それから1時間ほども運転したでしょうか。濃い霧の中でダンの目に入ってくるものといえば、まさしく白地に緑のナンバープレートの白い車の後ろ姿だけでした。運転にはかなりの注意力と緊張感が必要でしたが、それでも退屈で仕方ありませんでした。

そんなとき、ふと心の中に静かな細いささやきが聞こえてきたのです。

「ダン、一番右側の車線に移ってスピードを落とさない。」

スピードを落とす？ どうして？ ほかの車やトラックは3メートル先の見通しがきかないこともおかまいなく、この霧の中をスピードを出して走っていても何事も無いのに。

そのうえ、夜もだいぶ更けてきました。このスピードで走り続けたとしても、この霧深いクリスマスイブのうちに指輪の箱を開けるのはとうてい無理でした。クリスマスの当日になることは避けられそうにありません。

ダンは迷いました。みたまが本当に警告してくれたのだろうか。それとも注意した方がいいという単なる自分の思いだったのだろうか。ほかの車と同じスピードで走り続けてはいけないのだろうか。どうしても右側の車線に移りスピードを落とさなければならないのだろうか。

するとまたみたまのささやきが聞こえてきたのです。「ダン、今のままでは路上で事故があっても手前で止まることは不可能だ。事故に巻き込まれて大破してしまう。右側の車線に移りスピードを落とさない。」

ダン・ライテルは、決してみたまのささやきを無視してはならないと教えられてきていました。気は進みませんでしたが、右折の合図を出して車線を変え、スピードを落としました。白地に緑のナンバープレートをつけた白い車は変わらぬスピードで、たちまち見通しの悪い霧の中へ吸い込まれるように消えていきました。

遅くなくても行かないよりはしました。少し落胆しながら考えました。これだけスピードを落とせば、たっぷり時間がかかることは間違いありません。

ダンは、大好きな監督が以前話してくれたことを思い出しました。それはやはり、何年も前のクリスマスイブ



に起こったことでした。監督は当時兵士として基礎訓練を受けていました。休暇も取れそうになく、ベンジャミン・クラーク一等兵は、友達や家族から遠く離れた所でクリスマスを過ごすことになりそうでした。

ところがぎりぎりになってうれしい指令が下りたのです。「今より直ちに7日間のクリスマス休暇を許可する。」

しかしベンジャミンは飛行機の予約もしていないし、モンテレー発のバスに乗るにも、またベースからほかの教会員たちと相乗りして家へ帰る手配をするにもすべて遅すぎました。できることといえばハイウェイを歩いて、通りがかりの車に乗せてもらうことぐらいでした。

カリフォルニアからの荷を積んだレッドというトラックの運転手がベンジャミンを拾ってくれ、東部のネバダまで乗せてくれることになりました。アイルランドなまりのレッドのテナーの声にバリトンの自分の声を合わせて、ふたりはお互いの知っているクリスマスの歌を声高に歌いました。

ネバダに着いた彼は寒さの中でしばらくの間、自分の家のある北へ向かう車を待っていました。しかし、その辺りを通りかかる車は普通でもあまり多くありません。ましてや、クリスマスイブの夜更けともなると、はたして拾ってくれる車があるのでしょうか。

ようやく1台の車が、暗やみの中にヘッドライトを照らしながらやって来るのが見えてきました。車はスピードを落とすと止まって彼を乗せてくれました。幸運にもその車は同じ方向に向かっている途中で、彼を町まで連れて行ってくれることになりました。

それから何が起こったのか、監督が話してくれたことを思い起こしました。彼が軍用のバッグを持って後部座席に座り、車が動いたか動かないうちに、年若い兵士のベンジャミンは前に座っている3人の若者が酔っていることに気づいたのです。しかも彼らはまだ飲むつもりでした。ベンジャミンにもお酒を勧め、彼が断わると気分を損ねたようです。

後ろの座席で、若いベンジャミンは不安を募らせました。酔いしれた運転手、猛スピードで走る車、ボリュームいっぱいのラジオ。自分の置かれた状況にベンジャミンの心は暗く沈み、不吉な予感でいっぱいになりました。

そしてついに彼はこう言ったのです。「お願いします。車を止めて降ろしてください！」前の席からは大きな笑い声が返ってきました。「おとなしくしてなよ、

兵隊さん。だれが何と言おうと車を止めるつもりなんてさらさらないぜ。」

数キロほどの恐怖のドライブで、ベンジャミンは車のタイヤの音やラジオのかん高い音、前の席から聞こえてくるくだらない話や大きな笑い声を聞きながら、むせかえるようなたばこの煙と安ウイスキーの強烈なおおいにじっと耐えていました。

だんだんと、彼は自分の命の危険を強く感じるようになりまし。そして恐怖におののきながら祈り始めました。「天のお父様、私は今大変な目に遭っています。この場を抜け出す方法がわかりません。どうぞお助けください。どうぞ私を守り、命をお助けください。天のお父様、怖くてたまりません。どうしても助けが必要なのです。」

ダンはそのとき監督が言った言葉をはっきり覚えています。「するととても静かな、穏やかな声が私に、車の床に伏して、重い軍用バッグを体の上に置きなさいとささやいたのです。」

彼はすぐにそのようにしました。前の座席と後ろの座席の間の狭いスペースに体を押し込めるようにかがみ込み、バッグを背中に乗せました。それから彼は額を床につけ、両手を頭の上に置きました。

その数分後、一瞬世の終わりが来たかのようなのでした。車はコントロールを失い、キーツというタイヤの音と共に急カーブすると、猛スピードで走ってきたもう1台の車とすさまじい勢いで衝突したのです。

だいぶ時間がたってから、ベンジャミンは意識を取り



戻しました。彼は手足も頭も動かさず暗やみの世界にいる自分に気づいたのです。上下も左右もなく、自分がどこにどうなっているのか見当もつきませんでした。静まりかえった車の中は何も動く様子はなく、前の席に突然襲いかかった死の気配をうかがわせるガソリンと吐き出されたウイスキーの臭いだけが立ちこめていました。

1時間ほどたったのでしょうか。1台の大型トラックが、事故現場に車を止めました。ふたりの運転手は無線ですぐに警察に連絡し、救助を求めました。事故現場からはかなり離れた所でメチャメチャになっている車の中に生存者がいようとは、思いも寄らないことでした。ところが、事実は違っていました。警察官は一方の車のふたり連れの遺体ともう一方の車の十代の3人の少年たちの遺体と並んで、ベンジャミン・クラーク一等兵を見つけ、救出したのです。

救急隊のひとりが言いました。「君、乗せてもらった相手が悪すぎたね。でも、きっとだれかが君を守ってくれたんだよ。これからの人生を有意義に送らなくてはね。命を救ってもらったんだから。今夜のような事故で傷ひとつ負わないなんて、神業としか思えないよ。」

ダンは思いました。何年も前のこのクリスマスイブに、もしクラーク監督がみたまの声に気づかなかっただら、あるいはみたまのささやきを無視していたらどうなっていたらう。

ダン・ライテルは霧の中に注意深く目をやりました。

すると突然、霧の中にテールライトの赤い光が見えた

のです。パトカーの赤色灯の点滅と共に、路上には炎が上がっているのが見えました。止まっている車の列の間を歩いてひとりの警官がやって来ました。そしてこう言ったのです。「前方で大きな事故がありましてね。相当数の乗用車とトラックが巻き込まれたんです。今1車線でも通れるようにしていますからもう少し我慢してください。」

北へ向かう4車線の車が1車線に合流するまでにはかなりの時間がかかりました。事故の犠牲者を心配するダンの気持ちは、信じ難い驚きの念に変わり、さらにすさまじい車の衝突現場を通り過ぎるときには吐き気を催すほどの不快感へと変わりました。目の前には、グシャグシャにつぶれた車や車体をまっふたつに切り裂かれたようなトラックの無惨な姿、救急車やパトカー、救助隊の列、そして道路わきには毛布で覆われた遺体の山が見えました。

現場を通りかかりながら、ダンに残がいと化した車の数を数えてみました。10台……20台……30台。クリスマスイブのハイウェイで、何人の人が事故に巻き込まれたことでしょうか。足止めを食ったのは幸運な方で、最悪の場合には命を失ったのです。

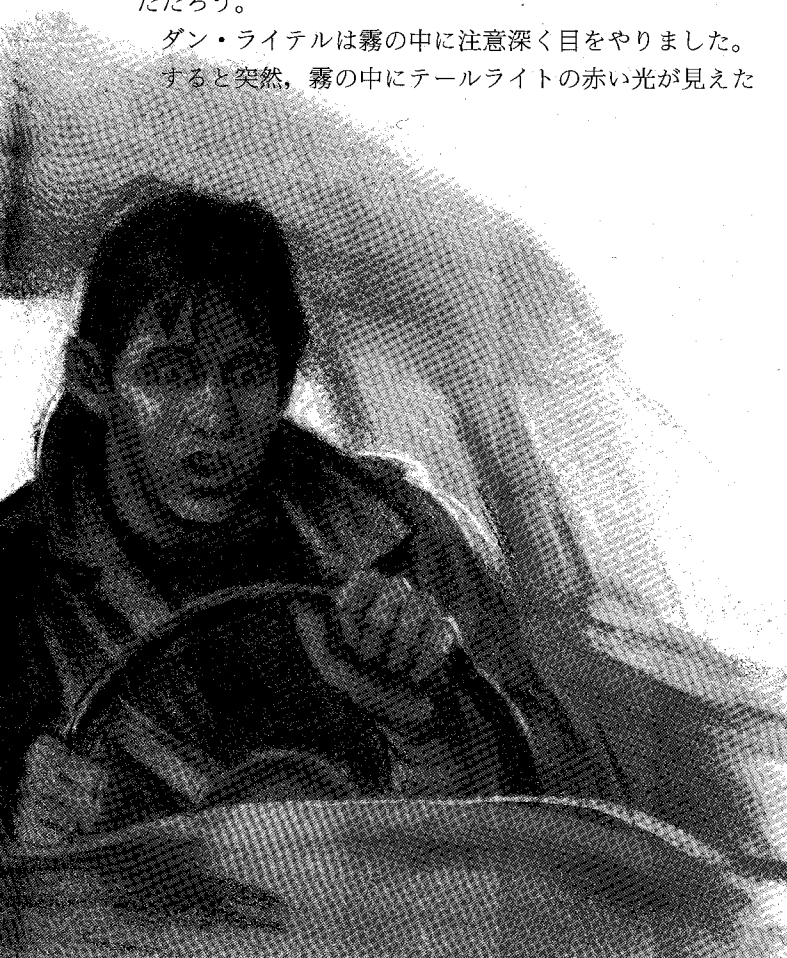
そしてなんと41番目にあの車があったのです。背筋の凍る思いで、ダン・ライテルは白地に緑のナンバープレートのある白い車の姿を確認したのです。車は40番目と42番目の事故車にはさまれ、ペシャンコにつぶれていました。

ダンは思いました。何時間も何時間もあの車のすぐ後を走っていた。車線を変えてスピードを落とすようにというみたまのささやきが聞こえてくるまでずっとそうしていた。みたまの警告に従わなかったらどうなっていたらう。警告を受けながら、それを無視していたら、と。そう思っただけで彼はゾッとしました。ダンは、監督が何年も前に学んだ原則を、今かつてないほど身にしみてわかったのです。

やっとすさまじい事故現場を後にして、ダンはまた以前のように、ゆっくりとしたスピードで走り始めました。ラジオをつけると、何キロも離れた放送局から、美しいクリスマスソングが流れてきました。

心とむその調べは、何の雑音も入らず、澄んだ音色を響かせていました。□

*テリー・J・モイヤー兄弟：教会福祉事業部職員。ソルトレーク・バトラーステーキ部バトラー第8ワード部所属。



シンガポールの聖徒たち

リチャード・タイス

北から南へほぼ5キロにわたって広がるシンガポールの町を車で抜けると、6軒の豪華なホテル、11カ所の立派なショッピングセンター、緑豊かないくつかの公園、立ち並ぶ数多くの会社やアパートの前を通り、島国シンガポールの近代的な表情を見て取ることができます。またそれに劣らず印象的なのは、このドライブで見られる5つの回教寺院、ふたつの中国仏教寺院、ヒンズー派の寺院がふたつとシーク派の寺院がひとつで計3つのインドの寺院、そして6つのキリスト教の礼拝堂です。一角に違った宗教の建物がいくつも見られるのは珍しいことではありません。

こうした環境は、数多くの多種多様な宗教、民族が対立することもなく共存した、人口264万のイギリス植民地時代の特徴によるものです。ちなみに、1989年に地元新聞紙の伝えるところによれば、人口の28.3パーセントが仏教徒、18.7パーセントがキリスト教徒、16パーセントがイスラム教徒、13.4パーセントが道教徒、4.9パーセントがヒンズー教徒、無宗教が17.6パーセントの割合になっています。近隣諸国が人種間、宗教間の緊張、抗争を繰り返す中で、シンガポールだけは大方のあつれきを避けてきました。相違はあっても「民族や文化がお互いにうまくやっていくのが我が国の特徴です」と、シンガポール地方部長のホー・ア・チュアン兄弟は言います。

その多様性と調和は、この地域の末日聖徒イエス・キリスト教会の中にも反映されています。たとえば昨年、新しい家族歴史センターが発足したとき、インド人のラジャモハン兄弟は待ちかねていたマイクロフィルムの読み取り機を前にして、どんな系図記録が見つかるか知りたいたいと思いました。「私はインド南部に先祖が多いのです。今ようやく先祖の記録が見つかり始めたところです」と彼は言います。その彼を助けたのは中国人女性で

した。彼女は中国の系図についての知識は豊富でしたが、インドの記録についてはまったくと言っていいほどわかりませんでした。それでもできる限り手を尽くして、読み取り機の使い方を教え、インドの記録にどのようなものがあるか調べてくれました。読み取り機のスクリーンで最初の記録が見つかったとき、ラジャモハン兄弟は声をあげました。「これは、みなヒンディー語だ。これからヒンディー語も勉強しなくちゃいけないのか。」シンガポールに住むインド人の大半は、インド南部とスリランカで一般に使用されているタミール語を話すのです。

シンガポール地方部の中国人支部大会の日、ホー地方部長は聖餐会の話の中で次のような中国の民話を紹介しました。彼は話の中の「知恵ある男」をひとりの「支部長」に置き換えてこう話しました。——ある男がひと聞かない自分の家の狭さを嘆いていました。「支部長」はこの男にアヒルや豚や牛を家の中に入れて、家族と一緒に生活させるように勧めました。数カ月後、上を下への大騒ぎの毎日が過ぎて、ようやく「支部長」は家畜を外に出すように勧めました。男は非常に感謝して、以後、まったくつぶやかなくなったというのです。この集会のもうひとつの興味深い点をあげると、ホー地方部長は、同じく大会で話をした副地方部長のタン・スー・キョン兄弟、ならびにブランシス・タン兄弟と同様に、標準中国語の使用者ではないのですが中国人であるということです。

シンガポールの人口のおよそ75パーセントは中国人ですが、彼らはいろいろな中国語方言を話します。中国人は皆、学校で標準中国語を学びますが、それでもほとんどの中国人にとって標準中国語は第2言語なのです。中国人のほかに、マレー人、インド人、インドネシア人、韓国人、日本人、ヨーロッパ人、アメリカ人がこの国で



上—ホー・ア・チュアン地方部長は、多民族にわたる教会員の必要を満たさなければならない。
下—警官のフランキー・ブン兄弟は家族や同僚の良き模範である。

平和に暮らしています。子供たちは皆、学校で英語を公用語として学びます。中国人支部のほとんどの教会員が英語を上手に話します。(この地方部では、ほかの4つの支部は英語を使用しています)英語に加え、マレー人はマレー語を、インド人はタミール語を勉強します。シンガポール人は皆、本来2、3カ国語を身に付けるわけで、これは多民族を抱える社会の中で生活するにはどうしても必要なことなのです。

シンガポールの教会は規模は小さくても大きな力を持っています。1969年4月14日、エズラ・タフト・ベンソン長老が福音を宣べ伝える地としてシンガポールを奉献しました。同年11月1日、G・カーロス・スミス伝道部長の下に、本部をシンガポールに置く東南アジア伝道部が組織されました。その年、シンガポールに派遣された宣教師の数は最多数を数え、1970年1月には支部が分割されました。多くの聖徒たちがこの時期に教会に加わっています。フランシス・タン兄弟もそのひとりで、彼は1969年3月に宣教師と出会い、3カ月後にバプテスマを受けました。

1970年、教会はブキティマ通りに土地を購入し、最初の集会所が1973年に完成しました。その後、市民団体や宗教界の指導者から批判が起り、政府はこれにこたえて外国人宣教師の数を宗教団体ごとにふたりまでに制限しました。この規制は1988年に緩和され、現在は10人までになっています。

こうした状況下にあっても、1980年代はシンガポールの教会にとって分岐点と呼ぶべき時期でした。1980年の元旦にシンガポール伝道部が組織され、地方部はより進んだ教会のプログラムを取り入れ始めました。70年代に大勢の教会員がユタ州プロボやハワイ州ライエのブリガム・ヤング大学に留学して、同時にワード部やステーク



部レベルでの教会の運営方法をじかに学んできたのです。たとえばブリガム・ヤング大学で修士号を得たホー地方部長はそのひとりです。80年代までに経験豊かな指導者が大勢生まれました。シンガポール人の専任宣教師も増え始めました。1987年には教会が新たに土地を購入する許可も得ました。現在は3つの教会堂に5つの支部があり、1,142人の教会員がいます。

シンガポールのクリーム色の教会堂はとりわけ魅力的です。日差しを受けて、洗い上げたばかりのように輝いています。シンガポールでは1カ月の雨量が150ミリから250ミリあり、町並みはいつも磨かれたばかりのように見えるのです。高層建築や美しく近代的なビルが建ち並ぶ町なかでも、これらの教会堂は教会員の誇りとなっています。

シンガポール地方部は再活発化と伝道活動のふたつの点に力を入れています。古くからの教会員が大勢活発でいる理由は、この活動に注ぐ人々の愛と忍耐のためかもしれません。教会員の努力はバプテスマにも結実しています。シンガポール支部に所属するルビー・ゴー、ビンセント・ゴー夫妻はその一例です。

ルビー姉妹は1969年に、家族9人と共にバプテスマを受けました。しかし間もなく教会から遠ざかりました。彼女はこう語っています。「私は1973年に、社会的に多忙な、会員でない男性と結婚しました。ある晩、車で帰宅の途中、対向車が車線を外れて私たちの車と衝突したのです。夫は即死し、私は意識不明になりました。そのショックから立ち直るのに1年かかりました。そのときから、教会に戻ることを真剣に考え始めたのです。」

銀行で働いていたルビー姉妹は、1979年に同僚のビンセント・ゴー氏と知り合い、1982年に職場結婚をしました。その間、1980年に彼女の家族の力添えでホームティーチャーの定期的な訪問が始まっていました。ルビー姉妹はときどき教会に行くようになり、ビンセントも一緒に出席することがありました。結婚後は、教会員でない夫や教会員の友人たちの励ましにより、ルビーはすっかり活発になったのです。

ところが1985年に、ビンセントが仕事上で問題にぶつかりました。「教会員はむずかしい問題に出会ったら指





左ーベドク支部の聖餐会。
右ーシンガポールの聖徒たちが誇りと
する教会堂のひとつ、ブキティマの教
会堂。
下ー癌との闘病から多くの教訓を得た
ジョセフ・ゴー兄弟と家族。



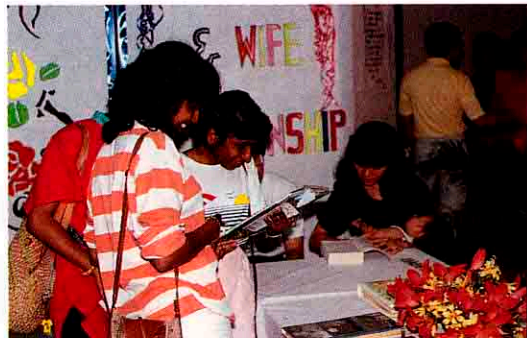
導者と相談できることを知っていました。それで、私は教会員ではなかったのですが、支部長のところへ行って事情を説明したのです。彼は、私が問題を解決する勇気が持てるように助けてくれました。その結果、関係者全員が満足できる形で問題を解決できたのです。そのころ日曜学校のテキストで、みたまによって生きることについて読んでいました。私は何かを変えなくてはならないと悟り、その年にバプテスマを受けたのです。」

ルビー姉妹は気持ちをこう語ります。「ビンセントのバプテスマのとき、みたまを強く感じました。あんなことは初めてでした。ふたりはもうずっと前から夫婦なのに、なんだか私は新しい人と結婚して、新しい花嫁になったような気持ちでした。あふれる幸福を抑えることができませんでした。」

教会員たちの力の一端は、福音を広めるという彼らに与えられた責任から生まれています。シンガポールでは戸別訪問やチャリ配り、街頭伝道などの自由な伝道活動は規制されているため、シンガポールの教会の発展のためにみずから進んで時間を捧げている専任宣教師や夫婦の宣教師たちは、教会の活動を助けています。教会員を力付け、お休み会員と連絡を取り、教会の指導者の要請に従って働いているのです。人々に福音を紹介する責任は会員たちが負っています。

セミナーやインスティテュートのプログラムは、教会員を強めるとともに宣教師の育成に大きく貢献してきました。地域教会教育副部長のリチャード・アン兄弟は、セミナーを毎日開くように生徒たちから要請されたと語っています。1986年7月、30人の生徒で朝5時45分からの集会が始まりました。1988年1月からは早朝インスティテュートのクラスが開講しました。交通機関は朝6時が始発のため、神権定員会が交替で送迎と朝食の準備を受け持っています。1987年に、セミナーの第1回生が卒業しました。最近では地元から出た宣教師全員が、セミナーやインスティテュートの卒業生です。現在は11人のシンガポール人宣教師が国内で働いています。

早朝セミナー第1回生のパーバラ・ホン姉妹は次のように語っています。「ほかの多くの生徒たちもそうですが、私の両親は教会員ではないので、セミナーにつ



いて初めは快く思っていないませんでした。毎朝宗教の授業を受けていたら、学校の勉強がおろそかになると思ったのです。でも私たちは、セミナーを受けたら学校の成績も良くなることを証明しました。頑張ったんです。先生も友達もびっくりしました。それでじきに両親も、セミナーに出席しなさいと言って応援してくれるようになりました。」

伝道活動の障害と思われることが、かえって祝福ともなっています。シンガポールでは19歳の男性は全員が最低2年間、軍務に服さなければなりません。また、教育が重視されていて、ほとんどの男性は兵役後さらに大学レベルの教育を受けます。もし伝道に出れば、大学に入学するか復学する時の年齢は23歳ですが、それは障害になっていません。2年間伝道しても国立大学への入学に支障はないうえ、兵役に費やした2年間で、より成熟した熱心な宣教師が誕生しています。シンガポールの教会員の多くが他国で教会の力となっている事実から見ても、これは大事なことなのです。

1984年のフィリピン・マニラ神殿の奉献も、シンガポールの聖徒たちを力付けました。シンガポール第2支部で家族歴史相談員を務めたことのあるエドワード・ベーコン、ロイス・ベーコン夫妻は、地方部で毎年神殿訪問を計画していると報告しています。神殿や神殿の目的についての理解が深まるにつれ、参加者は増えました。最初の訪問の参加者は年に1回で20人ほどでしたが、今では年2回の訪問をそれぞれひとつの支部が主催して、20人以上の会員が参加しています。

シンガポールはアジアの中でも最も高い生活水準を維持している国のひとつです。島国のこの都市は商工業の中心地となっています。シンガポール港は規模においては世界第4位、入港船舶の総トン数では第1位の自由貿易港であり、国際空港は各航空会社から第1級の施設として評価を受けています。マニラまでの往復料金は高額ですが、神殿訪問には大勢の教会員が参加しています。これまで何十組もの夫婦が結び固められ、聖徒たちは先祖のための儀式にも取り組み始めています。

教会に対する社会の見方はときに厳しいこともありました。現在はそれが変わりつつあります。教会員は静

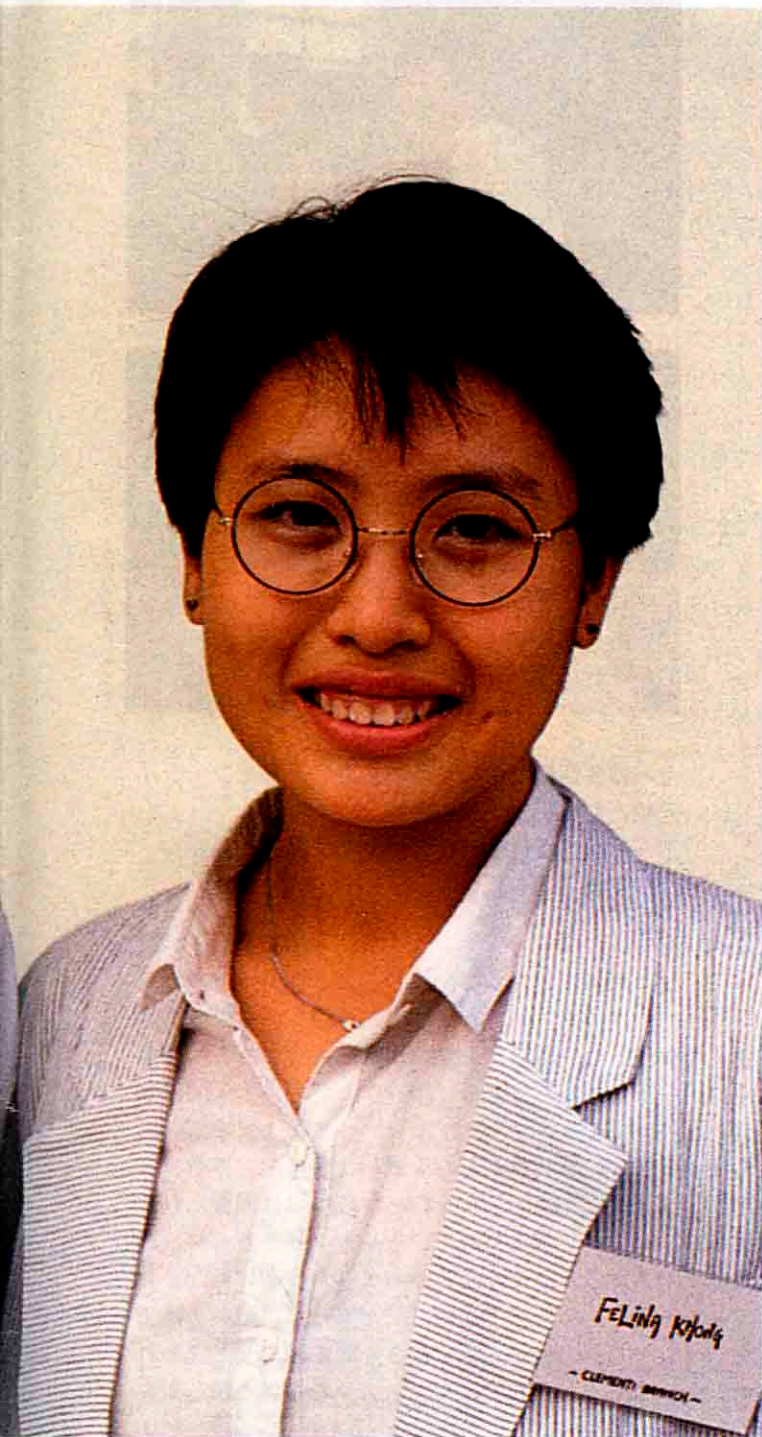




左—ブキティマの教会で行なわれたオープンハウスの訪問者。

右—シンガポール地方部は伝道と再活発化に力を注いでいる。

下—セミナーを受講するバーバラ・ホン姉妹（左）やフェリナ・コン姉妹たちは、セミナーが学業にも役立つことを証明してみせた。



かに自分の標準を守りながら公務や社会奉仕にいそむことによって、回復された福音に対する市民の尊敬を勝ち得ているのです。支部扶助協会会長のヘレン・ホー姉妹は、ユファ選挙区(人口5万余の地区)の女性委員会委員長を務めています。各選挙区にあるこの委員会は、女性のための文化、教育活動を企画実行しています。会合は普通日曜日に持たれますが、ヘレンの委員会では彼女が安息日についての信念を説明して以後、活動のほとんどが土曜日に行なわれるようになりました。日曜日に行なわれる活動には、ヘレンは出席を免除されています。

特別巡査官で改宗者のフランキー・ブン兄弟は、1年余り前に教会に入りました。彼はこう語っています。「初めのうちは同僚たちから何となく疎外されていました。しかし私はいつも忍耐して、彼らが良い生活を送れるように力付けようと心がけています。イスラム教徒の友人たちにも、自分の宗教をしっかりと守るように励ましています。今はほとんどの人が私の信仰を尊重してくれています。」彼のすばらしい模範によって、母親と兄弟が最近バプテスマを受けました。

シンガポールの聖徒たちは特有な環境による試練だけでなく、私たちと同様の試練も受けています。ベドク支部幹部書記のジョセフ・ゴー兄弟は2度にわたる癌との戦いを、妻のジェミーやふたりの子供たちの助けを得て克服してきました。彼は1987年に、左足に腫瘍を発見しました。そのときのことを、こう語っています。「当時サッカーをしていたのですが、歩くときに痛みを感じるようになったのです。あまりそれが続くので、妻から医者へ行くようにしつこく言われ、レントゲン撮って初めて腫瘍だとわかりました。後で医師が言うには、もし腫瘍が骨にまで達していたら足を切断していたかもしれないということでした。でも、その前の晩に受けた神権の祝福を私たちは覚えていました。また歩けるようになるという約束を受けていたのです。」

腫瘍摘出手術は成功し、ジョセフは3カ月間放射線治療を受けました。「バランスの取り方や歩き方をもう一度学び直す必要がありました。7歳になる息子のケルビンが私のために毎日祈り、ときどき手を握っては慰めてくれました。回復が間に合って、ケルビンのバプテス

マを私が施すこともできました。足に力かけることができないので、バプテスマの途中で倒れたりしないか心配でしたが、何の問題もなく無事に終わりました。」ゴエ兄弟はそう語ってくれました。

ところが1988年1月になって、X線診断で今度は左の肺に白い斑点がいくつか見つかったのです。彼は半年間化学療法を受け、頭髪は失われました。免疫力が弱まったために水痘などのいくつかの病気にもかかりましたが、やがて斑点はひとつを除いてすべて消えました。最後のひとつは現在も油断なく検診を続けています。12月には体力が回復して、家族でフィリピンのマニラへ行き、神殿で結び固めを受けることができました。

扶助協会の第一副会長を務める妻のジェミーはこう述べています。「この経験によって、心の底から祈ることを教えられました。悲しみとはどんなものか、喜びとはどんなものか、それまでは本当にはわかっていなかったと思うのです。私は夫から信仰についてたくさんを学びました。夫は神を恨みませんでしたし、不平も言いませんでした。2度目の闘病のときは私自身が本当に気落ちしてしまったのです。でもあるとき、祈っていて『私は自分が何をしているかよくわかっている』という言葉が浮かんできて、神を信頼しなければいけないことに気づかされたのです。」

ジョセフはこう付け加えます。「問題が起きて私たちはひとつになりました。試しによって妻や子供たちの愛をよく知りましたし、私も家族に対する愛が一層強まりました。主は私たちが思いやりや人を理解する力を深めることができるように、もっと忍耐強くなり、人の苦しみがわかるようになってほしいと望んでおられるのだと思うのです。」

クレメンティ支部の伝道主任を務めるスキマン・アブラハム兄弟の話は、シンガポール特有の問題がどのようなものかを私たちに教えてくれます。アブラハム兄弟は以前はキリスト教徒ではありませんでした。インドネシア生まれの両親は、第二次世界大戦の前にシンガポールに移住してきました。幼いスキマンは両親と共に礼拝に集い、彼らが所属する宗教の教えを勉強しました。

自分たちの宗教に熱心な両親でしたが、彼らはスキマンを末日聖徒たちが教える学校に通わせたのです。ある土曜日に彼は、一緒にバスケットボールをしていた末日



PHOTO BY HUANG BEE TAN

上一教会活動に参加する教会員のアルビン・ライ兄弟とマリーン・ラウ姉妹。
下一地域の女性委員会で委員長を務めるヘレン・ホー姉妹（中央）。

聖徒から教会に誘われました。翌日、スキマンは教会に出席しました。彼はこう語っています。「私は回復された福音について少し教えられて、モルモン経をもらい、家に帰る道すがらさっそく読み始めました。週に何回かレッスンを受け始めたのですが、父が怒って、聖典を捨ててしまいました。母からはしばらく頭を冷やせと言われても1カ月して、バプテスマを受ける決心をしたんです。」

両親から家を出て行くように言い渡されたスキマンは、その後、軍に入隊するまでの2カ月間、帰る家がありませんでした。しばらくして両親は思い直し、母親が彼を呼び戻しました。スキマンは兵役を終え、それから船会社に勤めました。1982年には父親が亡くなりました。そのときのことを彼はこう語ります。「臨終のとき、父は私がクリスチャンであるにもかかわらず、私に母を頼むと言いました。母や残された家族を養う一番大きな責任が私にかかってきました。伝道に出たかったのですが、両親の信仰から見れば、母を残して伝道に出ていくのは親不孝なことです。1985年のある晩に、祈っていてその答えがありました。『とにかく行きなさい。私がお母さんの世話をしましょう』と。それで伝道に出たのです。主は確かに私の家族を養ってくださいました。私が伝道から帰ったとき、家族はみんな元気でした。

母と私の間には今では何も問題がありません。母はよく私のところに遊びに来ます。私が福音によって前よりも従順な息子、良い人間になったことを母は知っているんです。」

シンガポールは確かに、東南アジアにおける民族、文化、言語、宗教の縮図です。とりわけこの小さな国の教会員たちは、福音が神のすべての子供たちのためにあるということを証明しています。

「この福音によって、人生が何のためにあるかよくわかります」とフランシス・タン兄弟は述べています。「福音によって私たちは天父のようになることができます。自分の可能性を知り、互いに奉仕し、励まし合うこともできます。私たちは皆、教会に入るときに何かしらこれまでの生活から切り捨てなければならぬものがありますが、それで万人のための教会に所属できるのです。もう異国人でも宿り人でもありません。シンガポールは、そのように人をひとつに結ぶきずなのモデル地区だと思うのです。兄弟愛、姉妹愛によって、すべての人々がひとつの家族として結びついているのです。」□

*リチャード・タイス兄弟：この記事執筆するためにシンガポール取材訪問した。ユタ州カーズ西ステーク部ウォールナットヒルズワード部所属。

シンガポール伝道部

シンガポールは国土は小さいながら、東南アジアにおける影響力は広範囲に及んでいる。東南アジア諸国のほぼ中央に位置し、多民族国家であり、経済、通商に大きな力を持つことから、周辺諸国への玄関口としての役割をも担う。このためシンガポールは、まさに広範囲にわたる東南アジアの地に福音を広めるための格好の拠点といえる。シンガポール伝道部の管轄地域は世界の約20パーセントの人口を擁し、シンガポール以外にインド、スリランカ、マレーシア、インドネシアがその管轄下にある。伝道部に赴任する夫婦の宣教師は、教会の地方部、支部を援助するためにシンガポールと各国の間を頻りに行き来する。ことにロバート・W・ホートン伝道部長は、大会を管理し、教会員を指導するために外国へ赴く機会が多い。インドへの旅行が年に4、5回、スリランカへ4回、マレーシアへは2カ月に1回、インドネシアへは年に2回以上ある。伝道部の教会ユニットを統計から簡単に紹介しよう。

インド——地方部数3、支部数9、教会員数729。

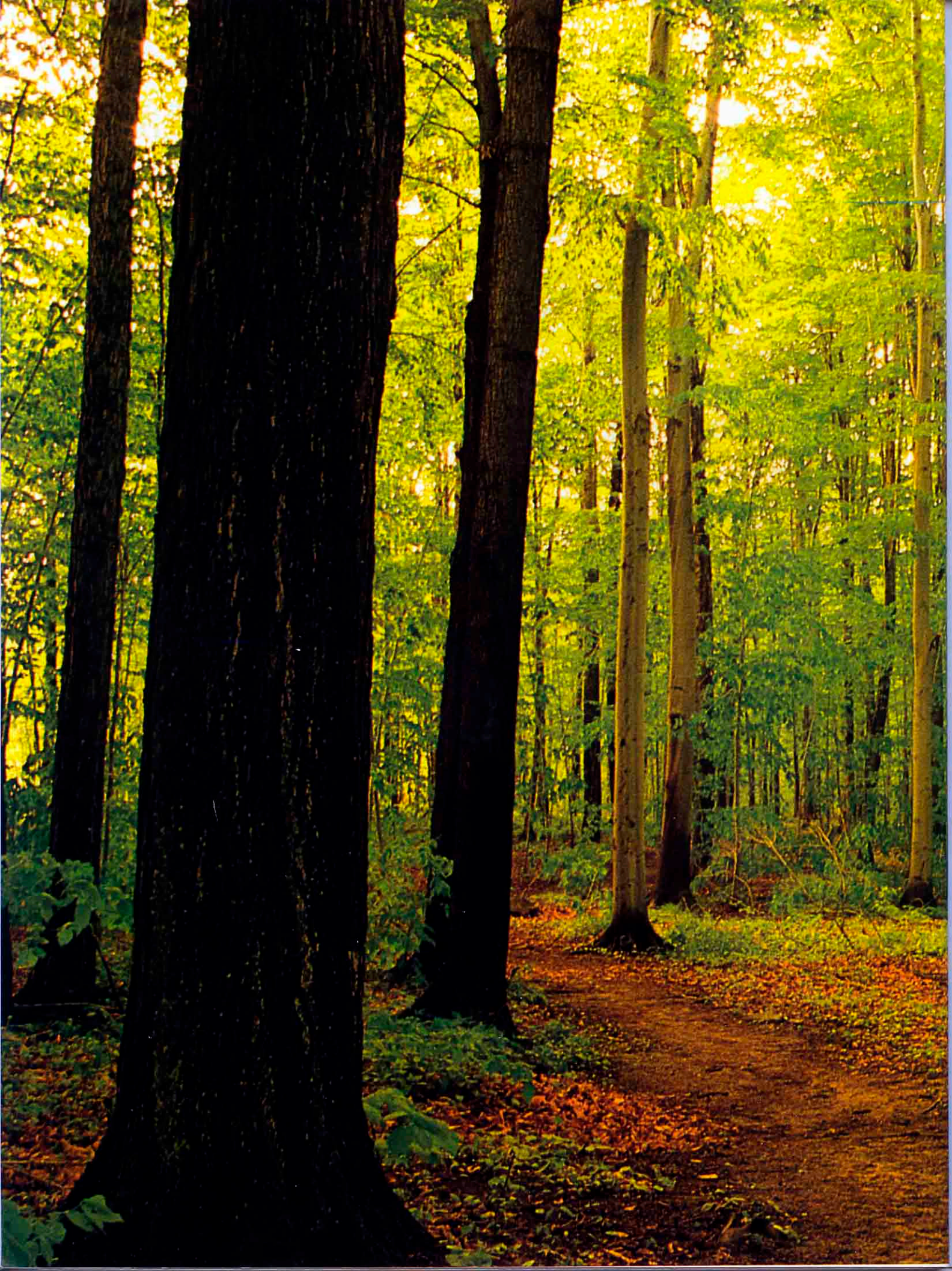
指導者の大半はインド人。

インドネシア——地方部数3、支部数17、教会員数4,248。指導者はインドネシア人。

マレーシア——地方部数1、支部数3、教会員数277。指導者はほとんどマレーシア人。

シンガポール——地方部数1、支部数5、教会員数1,142。指導者はシンガポール人。

スリランカ——支部数1、教会員数135。指導者はスリランカ人。



ジョセフ・スミス・シニアの家の農場の近くにある森は、日用品を供給するだけでなく、
家族の霊的な生活にも潤いを与えた。
このスミス家の農場の森のどこかに、
家族がだれにもじゃまをされずに祈りを捧げる静かな場所があった。

聖なる森

ドナルド・L・エンダース

ジョセフ・スミスが少年のころ、当時有力であったプロテスタントの教会の牧師たちは、神はもはや人に語ることはないと教えていました。主の使徒の死によって天からの導きが終わりを告げたこと、また聖書は人に対する神の言葉をすべて収めたものであり、もう啓示が授けられることはないと主張していたのです。

しかし、神は人類をお忘れにはなりません。1820年のある晴れ渡った春の日、ニューヨーク州西部の農村にある自宅の農場の森で、少年ジョセフ・スミスに父なる神と御子イエス・キリストがみ姿を現わされたのです。この出来事こそ、何世紀もの間失われていた福音の回復を告げ、時満ちたる神権時代への扉を開くものでした。

ジョセフ・スミス・シニアを長とする家族がパーモント州東部のコネチカットリバーバレーからニューヨーク州西部に移ったのは、1816年のことでした。彼らはパルマイラに落ち着きました。そこはジェネシーリバー郡の肥沃な穀倉地帯に位置する豊かな村でした。

そのパルマイラに移り住んでからおよそ2年後、スミス家はスタッフォード通り沿いに村を3キロほど南下したところに丸太の家を建てました。それは、当時買収交



渉をしていた40ヘクタールの森林地帯の近くに住むためでした。スミス家は、1820年代半ばにその契約に署名をすることになるのですが、所有者から契約前に整地をする許可を受けました。そこで、1819年から1825年にかけて、彼らは24ヘクタール分の伐採を行ないました。そしてそこを畑や牧草地、菜園、果樹園、住宅地、建築用地に変えていったのです。

農場の開発にあたって、スミス家は19世紀初頭の他のほとんどの農家が採用していた方法に倣いました。すなわち、3分の1の土地を森林のまま残しておいたのです。彼らが残した約10ヘクタールの森林地帯は、購入した土地の東側のふたつの丘をほぼ覆っていました。そこに密生していたカシの木は、たるを作るのに使われました。他の木は調理や暖房用の燃料に使ったり、樹液からメープルシロップや砂糖を精製したりするのに使われました。また、薪として近隣の人々に販売もしました。

農場の西の端の残った土地は、森林のままになっていました。そこには大きなカエデの木が多く、シロップを採取するのに使われました。スミス家は、毎年約1,500本のカエデの木から、約450キロのシロップを採取しています。長男のアルビンが家を建てるために、ブナ材を切

り出したのもこの森からだと思われます。またこの森の木々からは家具や農機具が作られ、家族や家畜のための果実も取れたのです。

このスミス家の農場の森は、日々の生活に必要なものを家族にもたらず倉庫としての役割を果たしただけではありませんでした。霊的な生活にも潤いを与えたのです。スミス家のこの森のどこかに、家族が集まって祈りを捧げる静かな場所がありました。

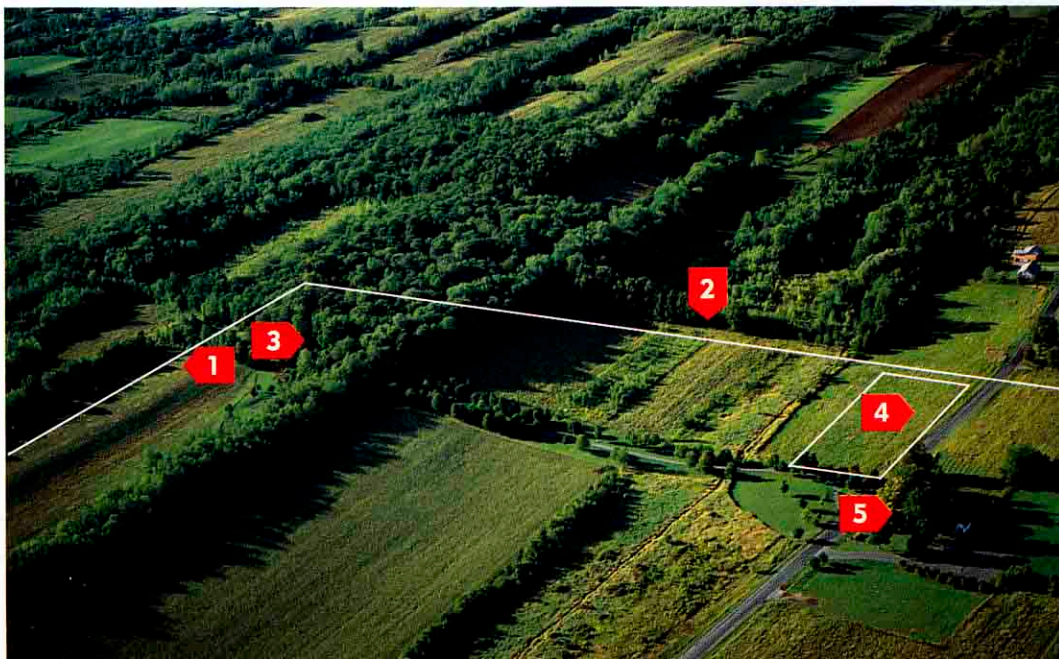
スミス家がこの農場から移転すると、後の所有者たちは農場の東側の森林の大部分を伐採して開墾し、また西側の森も現在の4ヘクタールにまで狭めてしまいました。農場の西側にあつて、昔から聖なる森と呼ばれてきたこの美しい森で、御父と御子イエス・キリストが1820年の春にジョセフ・スミスにみ姿を現わされたのです。

1805年12月23日に生まれたジョセフは、この森で示現

を受けたときは一介の少年でした。しかし、彼が幼いころから神と自分との関係について関心を抱いていたということが、幼少時代の記録からわかります。ジョセフはよく祈り、聖書をひもといたり、いろいろな教派の会合に出席したりしながら、霊的な事柄を理解できるように求めていました。しかし、こうした努力にもかかわらず、自分が主に受け入れられているのか、また神の教会というものがあるとすればそれがどの教会なのかとの問いを満足させるものではありませんでした。

その結果ジョセフは、信仰をもって求めるならば神は自分の疑問に直接答えてくださるに違いないと確信するようになりました。ヤコブの手紙を読んで、祈りを通して神から理解力を得られるのではないかと思ったのです。ジョセフにとって、このような特定の問いに対する答えを求めて声に出して祈るのは初めての経験でした。

静かな瞑想の場所として保存されてきた聖なる森には、今日、ジョセフの時代に育っていたと同じ木があり、多くは25メートルから30メートルの高さに達している。この写真はスミス家の農場で、(1)が西の境、(2)が北の境を表わす。聖なる森は北西の角(3)にある。ほかにも1823年モロナイがジョセフのもとを訪れたと思われるりんご園(4)、スミス家(5)がある。





ジョセフはこう言っています。

「1820年の早春、一点の雲もない美しい朝であった。」
ジョセフが祈りを捧げたのはそのような日でした。彼は安息日に、静かで人目を避けた場所を探し、祈りを捧げましたが、それは農家の子として春の多忙な時期に日曜日ぐらいしか仕事から離れられる時がなかったからでしょう。ジョセフが後に述べていることからすると、彼は森の中で祈ろうと、前日、父や兄たちと木を切りに行った所に行きます。農場の仕事は季節的なもので、木の伐採は通常開墾のために、晩秋から早春にかけて行なわれ、畑の耕作や植え付け、栽培が始まるまで続けられました。この伐採作業は大体4月末には終わっていたので、ジョセフが神に祈ったのは、1820年の多分3月の末から4月にかけてであったろうと思われます。

ジョセフが祈ってこの世のものとは思われない示現を受けた正確な場所は明らかではありません。しかし、どうやらこのことは、ジョセフが意図的に記さなかったようです。カートランド神殿で主がみ姿を現わされたという具体的な記述はむしろ例外で、予言者ジョセフは生涯を通じて、神聖な出来事が起こった場所を詳しく述べてはいません。記述があるものでも、ごく一般的なものにとどまっています。これは、神聖な経験への畏敬の念から出ていることです。

スミス家のこの西側の森は、スミス家がパルマイラから引っ越した後も、最初の示現の場所として近隣の人々に知られていました。1860年、子供のころジョセフ・スミスの友人であったと称するセス・T・チャップマンがスミス家の農場の跡地を購入しました。彼は後に息子のウィリアムに、農場の西側の森はジョセフが示現を見た指定した場所なので、一度も斧のを入れたことはなかったと述べています。

聖なる森は、ニューヨーク州西部で昔のままの姿をとどめている最後に残った森のひとつに数えられます。ジョセフ・スミス・シニアとアルビンが初めてその土地を手に入れたとき、スミス家の農場は近隣のほかの土地と

変わらず、広葉樹が生い茂る森林でした。多くは樹齢350年から400年に達し、目を見張るほど大きな木がそこかしこにそびえていたのです。

この広大な森の木々の下には落ち葉がじゅうたんのよう敷き詰められ、その豊かな土には、シダや草花、野草、それにサクラやミズキなどの灌木かんぼくが繁茂していました。1800年代初期の合衆国東部の森の中で、その規模、木々の高さ、樹齢、美しさにおいて、このニューヨーク州西部の森に匹敵するものはほとんどありません。確かに自然は長い年月を経て準備し、御父と御子の顕現けんげんにふさわしい聖所を造り上げたのでしょう。

最初の示現から1世紀半を経た今日、この4ヘクタールの森は今なお当時の美しさを保っています。古くからあるこの森にはジョセフの時代にすでに成木に達していた木々がまだそびえており、多くは樹齢200年を越えています。そして木々の根元の土には今なお季節の落ち葉が積み重なり、草花や灌木を絶え間なく茂らせているのです。

聖なる森は今、当時と比べよく手入れがなされ、美しく、生き生きとしています。これは、教会が末日聖徒にとって神聖であるこの美しい森を守り、延命するためのプログラムを長年にわたり行なってきたからです。新芽の生長と植樹によって、聖なる森の規模は初めの状態まで回復し、森の中の木々も次第に生命力を増してきました。聖なる森は、最近までは病気や公害により存続が危ぶまれていました。しかし今は、驚くほどの回復を見せています。

このように聖なる森は、ひとりで、あるいは夫婦で、または数人のグループで訪れる人々の静かな瞑想めいそうの場として保存すべきであるとの指示により、また専門家による継続的な保存プログラムによって、後の世代の人々も、この聖なる地の静寂と神聖さとを味わえるようになっているのです。□

*ドナルド・L・エンダース兄弟：教会歴史部教会史跡担当主事。ユタ州ケイズビル第11ワード部所属。

新年の決意を忘れないために

皆さんは毎年、新しい年を迎えると、生活を改善するために多くの計画を立てることでしょ。でも、数週間後にはその熱意を失ってしまうということはないでしょうか。もしそうであれば、ここに皆さんが新年の決意をできるだけ持続するのに役立つアイデアをいくつかご紹介しましょう。

現実に実行可能な決意をしてください。あまりたくさんのごことを、あまり急いでしようとしてはいけません。たとえば、もし今まったく聖典を読んでいないのに、毎日30分読むという決意をするなら、達成できない目標を立てることになるかもしれません。たとえばほんの数節でも、毎日いくらか読むと決心する方がずっと現実的でしょう。それが習慣になれば、さらに大きな目標を立てることができます。

もっと小さな目標をいくつか段階的に立てましょう。大きな目標を立てたら、それを小さな目標に分けるのです。たとえば、お金をためたいとします。その際ただ漠然とした目標を立てないで、最初の月に無理なく定められる金額を決めて、その目標を達成するように努力します。それができたら、次に金額を増やし、3カ月ごとにどれほどためるかという目標を立てます。このようにして小さな目標を積み重ねていくと、意欲を失うことなくだんだん進歩するようになります。

目標を思い出させる物を用意してください。実行しようと思うことを決めた後、それを思い出させる物をいくつか自分で作ります。鏡やよく見る場所に目標を書いた紙をセロテープで張る方法はよく用いられていますが、それも効果的でしょう。しかし、もしそれを見てもあまり気に留めなくなるようであれば、何か別の方法を試してください。簡単な方法が効を奏することが往々にしてあります。たとえば、毎日聖典を読むという決意をしたとします。朝ベッドから起き出すとき、枕の上に聖典を

載せておくのです。そうすると、寝るときに聖典をどけなければならないので、読むのを忘れたという言い訳は立たなくなるでしょう。

自分に対しても思いやりを持ってください。もし自分が立てた目標のせいで、自分が惨めな思いをするようであれば、ためらわずに変更してください。それはとりもなおさず、あなた自身の決意なのです。とても大きすぎて達成できない決意をすることがときどきあります。失敗したと考えてあきらめずに、自分の目標を修正し、自分の生活を改善するのに真に役立つものとしてください。□



思いがけない星

マーガレッタ・スペンサー

北 アイルランドのベルファーストに、私はふたりのルームメイトと一緒に住んでいました。ふたりはほかの宗教の信者で、私たちは友達を通して出会ったのです。三人とも余分なお金など、少しもありません。キャロルとアンは助産婦になるための勉強をしていましたし、私は、卒業後に看護課程を取るために、お金をためていました。

アパートは、快適とは言いかねましたが、私たちにはその程度の部屋を借りるのが精一杯だったのです。

それにもかかわらず、キャロルとアンは、12人の貧しい子供たちのために、クリスマスパーティーを開くことを、児童保護協会に申し出ました。もちろん私も、キャロルのお姉さんのマリアンと同様、一緒に手伝うこともお金を出すことも、喜んでするつもりでした。

私はスラム街の不幸を、何度も目の当たりにしてきました。ある日、ぼろぼろのサマードレスを着た小さな女の子が、冷たい風の吹き抜ける歩道に座っていました。ほかには何も遊ぶものを持っていないでしょう。女の子はひと塊の汚い粘土をこねていました。この光景が胸を刺すように、私の心に残っていたのです。今となっては、あの子を見





ILLUSTRATED BY PAUL MANN

つけて何かをしてあげることにはできません。しかし、代わりにほかの子供たちを助けてあげられるかもしれないのです。

私たちのクリスマスツリーは、70センチぐらいの高さで、9つの小さなガラスのボールや、金や銀のキラキラした短冊、それにコンフレークの箱に入っていたアルミホイルの包み紙で作った星で飾られました。天井からは、色紙を細長く切った飾りや風船がいくつもつるされて、部屋を彩ります。食べ物は簡単なもの、フライドポテトにソーセージ、焼きトマト、クッキー、それにオレンジジュースを用意しました。12個のプレゼントは、どれも小さくて、高価ではありません。プラスチックのビーズをつなげたネックレス、人形ごっこで使う食事セット、小さい子供のための絵本、それにちょっとしたおもちゃやゲーム。そして、あの歩道の女の子を思い出して、私は粘土をひとつ買いました。

子供たちの到着です。できるだけきれいにして、一番上等な服を着ています。しかし、そのほとんどはすり切れていてぼろぼろでした。心の中で私は人数を数えました。11, 12, 13! ひとりの少女が、小さな妹を連れて来たのです。家で

留守番するのを承知しなかったのでしょうか。さあ、困ったことになりました。

そのころ私は、その年に行なうこととして、扶助協会のバザーに出すために女の子用のおもちゃのプラスチックの小さな人形の洋服を作っていたので、私の部屋には人形がいくつかありました。そこで、この不意のお客のために、私はそのひとつを、わずかに残っていた柔らかな包み紙ですばやく包むと、大急ぎでクリスマスツリーのそばに忍ばせたのです。

ほとんどの子供たちは、ドアのそばに集まっていますが、8歳ぐらいの少年が、何かを心に決めているかのように、薄い包み紙をすかして見ながら、すべてのプレゼントを念入りに調べています。

「お姉さん、もしよかったら」少年がはっきりとした口調で言いました。「このサッカーゲームをもらってもいい？ 友達と一緒に遊びたいんだ。」

キャロルはほほえんでいましたが、許したわけではありません。

「プレゼントは、パーティーの終わりにあげることになっているのよ。今はゲームをする時間なの。」

私たちは子供たちの考えたゲームをし、子供たちは私たちのゲームをしました。いくつかお話を聞かせると、子供たちは、今までの自分の経験を話してくれました。それから、皆で歌を歌ったのですが、子供たちは好きな歌を何度も何度も歌いたがるので、私たち大人は、少々うんざりしてしまいました。

「去年のことなんだけど」一番年上の少女が、皆の前でしゃべり始めました。12歳の体には大きすぎるぶかぶかのドレスを着て、ハイヒールを履いて、精一杯大人ぶっています。「大きなパーティーに行くことになったのよ。何百人もの人が来ていたし、クリスマスツリーといったら、天井に届くぐらいに大きかったわ。」

「楽しかった？」うらやましそうな声がありました。

「全然。ここにいるやさしいお姉さんたちのように、私たちに話しかけてくれる人なんて、ひとりもいなかったのよ。」

簡単な食事を出すと、わあっ、と歓声があがり、続いてしんと静まり返ってしまいました。皆、食べるのに夢中なのです。

「まだ残ってるじゃないか。」ある少年が、隣の子をたしなめました。

「もう食べられないの。一度にこんなにたくさんのお皿のお皿が食べられることなんて初めてだもの。」

「じゃあ、ぼくにちょうだい。こんなにおいしいものを捨てちゃうなんて、もったいないよ。」

少年は、ほかの子の残り物も平らげ、とうとう、もう何も入らないほど満腹になったようでした。

私たちは、その少年にサッカーゲームを、12歳の少女にはビーズのネックレスを、人形の食事セットは、7歳の女の子にあげました。

けれども、「これをもらってもしょうがないの。お姉さん」と、この女の子が言うのです。「だって、お人形を持っていないんだもの。」

私は、扶助協会のプラスチック人形を、もうひとつ取って来ました。便せんに包むと、それがツリーの後ろに落ちていたように見せかけたのです。

「こんなにすてきなパーティー、初めて。」満足そうな声が聞こえます。「家族と一緒にいるみたいだわ。」

「本当にすばらしかったよ、お姉さん。」別の声が続きました。「いつだってぼくたちのそばにはお姉さんたちのだれかしらがいて、面倒見てくれたものね。」

そのとき私は、人に与えることについて学んだような気がしましたが、間もなくもつとたくさんのお話を学ぶことになりました。気が付くと、あの12歳の少女が、ビーズのネックレスを粘土に、その粘土をおもちゃの自動車に、さらには赤ちゃん用の絵本に交換してはなりません。

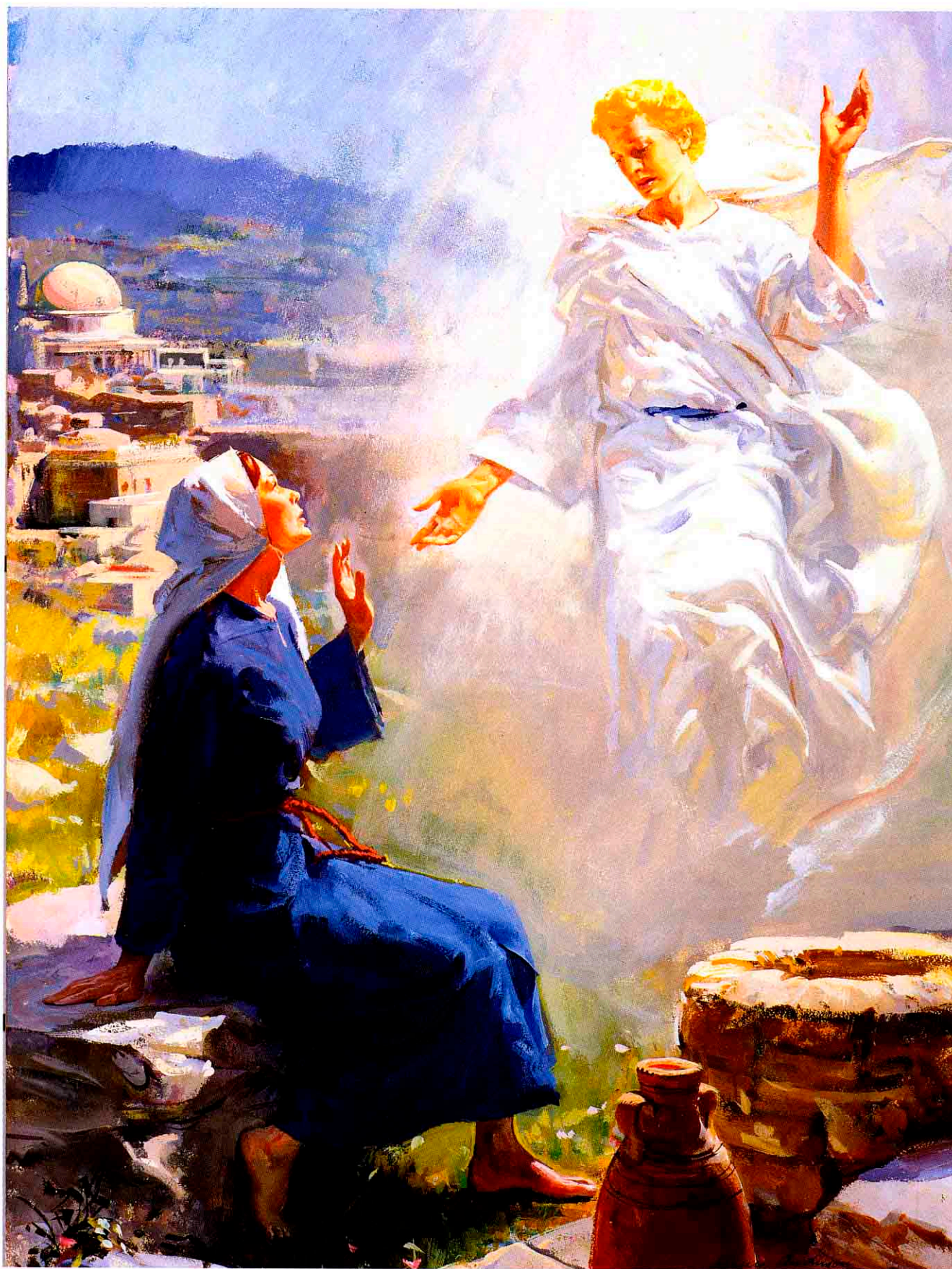
「これでいいわ。」絵本をもう一度包み直しながら言いました。しかし、一度はがしたテープは、もうしっかりとくっつきません。

「お姉さん、ひもを少しと、鉛筆ありますか。」

どうするつもりだろうと思いながら、ひもと鉛筆を渡すと、少女は不器用な手つきで包みを縛り、大きく不ぞろいな字で書きました。「トミーへ」

私が見ているのに気付くと、こう説明してくれました。「私の弟にあげるのよ、お姉さん。だれもパーティーに呼んでくれなかったの。それにプレゼントも買ってあげられないから。」

ぶかぶかの服を着たこの小さな少女の心にあふれる美しさと愛が、きらきらと輝いていました。そして何年もの間、すばらしいお手本として、私の心の中で輝き続けているのです。□



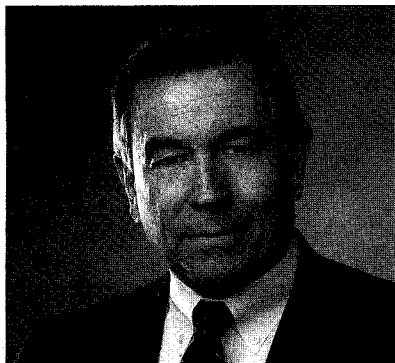
「あなたは男の子を産むでしょう」ハリー・アンダーソン画

「すると御使が言った、『^{みつかい}恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。』」(ルカ1:30-32)

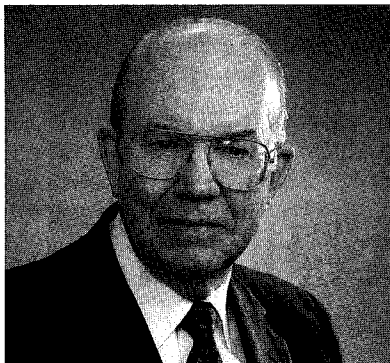
見 よ、われは神の子イエス・キリストなり。われは天地とその中にある万物を造れり。われは最初より御父と共に在りき。而して今、われは御父に在り、御父はわれにまします、御父はすでにわれによりてその御名の栄えを示したまえり。
(III ニーフアイ 9 : 15)

再組織されたアジア地域会長会

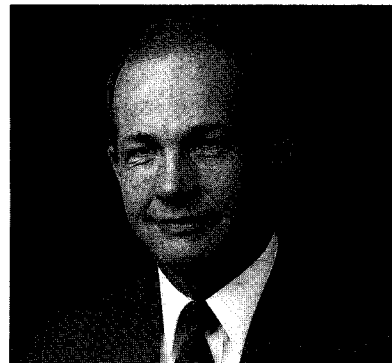
アジア地域会長会会長
マーリン・R・リバート



W・ユージン・ハンセン第一副会長



マーリン・R・リバート会長



モンティ・J・ブラフ第二副会長

大 管長会は、1990年10月1日付でアジア地域会長会を再組織することを発表しました。ダグラス・H・スミス長老と夫人のバーバラ・B・スミス姉妹は、アジア地域会長会を3年間務め、スミス長老はそのうちの2年間会長の任にありました。今後は教会本部へ戻り、北アメリカ西部地域会長会で働くことになりました。スミス会長夫妻は、アジアの聖徒たちによく知られ、また愛されています。すばらしい福音の教師であるふたりの影響力と良い模範は、人々の生活の中に生き続けるでしょう。7人の子供と38人の孫たちのもとへ戻り、これからも様々な機会を通して主の王国で働くふたりの健康と活躍を望んでいます。

アドニー・Y・小松長老と夫人のジュディー・小松姉妹も、ソルトレークシティへ戻り、ユタ州北部地域会長会で働くことになりました。小松副会長夫妻は、アジアで長年にわたり奉仕し、特に日本の地にあつては、地区代表、伝道部長、神殿長、地域代表管理役員、アジア地域会長会の責任を務めてきました。奉仕と愛に惜しみなく時間を捧げ、多くの貢献をしました。このような献身的な指導者のおかげで、アジア地域に住むすべての聖徒たちは祝福と励ましを受け、神の王国は発展してきたのです。

アジア地域会長会第二副会長であったマーリン・R・リバート長老は、大

管長会からアジア地域会長に召されました。副会長は、七十人第一定員会会員W・ユージン・ハンセン長老と、七十人第二定員会会員モンティ・J・ブラフ長老です。

ハンセン第一副会長は、1928年8月23日にユタ州北部の農耕地帯にあるトレモンで生まれました。農場で育ち、少年時代は厳しい規律と労働の毎日でした。1950年にユタ大学を卒業し、予備役将校訓練部隊で軍務に就きました。

1950年9月8日、ハンセン長老はジーニン・ショーウェル姉妹とアイダホフォールズ神殿で結婚しました。ふたりは同じ高校を出て、ユタ州立大学へ進学したのです。ハンセン長老の方は、卒業後ユタ州ソルトレークシティのユタ大学法学大学院に入りましたが、ほんの数ヶ月後には、韓国で軍務に就くように召集されました。召集令状が届いたのは、1953年、長男が生まれたばかりのときでした。長老は訓練を受けた後に、韓国へ船で向かいました。一方、ハンセン姉妹はユタに残り、初等教育の学士課程を修了しました。

1955年、ハンセン長老は韓国における軍務を終え、再び法学大学院に戻り、その間ハンセン姉妹は小学校で教鞭をとりました。1958年に法律の学位を取得したハンセン長老は、それ以後ほとんど開業弁護士として働いてきました。合衆国法廷弁護士協会など、いく

つかの著名な法律団体に所属し、1979年から1980年までは、ユタ州弁護士会会長を務めました。七十人第一定員会会員に召されたときは、ユタ州の高等教育を担当する州立大学理事会理事長の職にありました。

また、ハンセン長老は予備役将校としての軍務を続け、1980年には退役に先立ち、大佐になりました。

ハンセン夫妻は、息子が5人、娘がひとりあり、そのうち息子ふたりを亡くしています。ハンセン一家は福音を伝える業に献身し、教会を中心とした生活を送っています。ハンセン長老は、監督会を2回、ステーク部MIAの召しを数回、ソルトレークボネビルステーク部長などを歴任し、ハンセン姉妹は、初等協会、MIA、日曜学校、カブスカウトなどで働きました。こうしてハンセン長老は、1989年4月1日、教会の総大会で七十人第一定員会会員に召されました。

七十人第二定員会会員のモンティ・J・ブラフ長老が、地域会長会第二副会長となりました。長老は妻のラネット姉妹と7人の子供のうち4人と共に香港に住むこととなります。長男は帰還宣教師であり、長女もつい最近、韓国での伝道を終えて解任されたばかりです。

ブラフ長老は、1939年6月11日、ユタ州東北部にある農業地域のランドルフで生まれました。ブラフ長老の父親

は、長老がまだ生まれたばかりのころに、養育の必要な幼い4人の子供と母親を残して亡くなりました。

ブラフ長老は1965年ユタ大学を卒業し、数学教育の学位を修得しました。後に、同大学で経済管理学の博士号を修得しています。仕事上様々な経験を積むと同時に個人的な関心もあって、コンピュータ管理の業務に携わるようになりました。そして、後には運輸関

連の諸会社へコンピュータシステムとサービスを提供する個人経営の会社を設立するに至りました。また最近まで、ブリガム・ヤング大学およびユタ大学で経営学を教えていました。

ブラフ長老は、1962年8月にラネット・バーカー姉妹とアイダホフォールズ神殿で結婚し、1978年から1981年までは、ミネソタ州ミネアポリス伝道部長を務めました。長老は宣教師と伝道

の業をこよなく愛しています。また、これまで監督や若い男性中央管理会の一員として働き、1988年10月の総大会で幹部に召されるまでは、地区代表の責任に就いていました。

私たちはユージン・ハンセン長老夫妻およびモンティ・ブラフ長老夫妻とそれぞれの家族を心から温かく迎え、アジアのすばらしい聖徒たちと共に働きたいと思っています。

我が家の食糧貯蔵

神戸ステーキ部西宮ワード部
堂ノ本真基子

結 婚してすぐ、予言者の勧告に従いたいという望みと食糧貯蔵をしないという望みのさきやきに従って、主人と共に、1年間で1年分の食糧貯蔵を完成させる計画を立てました。行なうに従い、湿気と害虫から食糧を守る方法、上手な回転の仕方、栄養のバランスがとれているかなどを研究する必要のあることがわかりました。食糧貯蔵を勧告どおりに行なおうと決意し、実行に移したことによって、解決の道が開けていくという祝福をいただきました。アルマが言うように神様は「私の心を大きく開き、私の理解力を増し」て(アルマ32:28)くださいました。

湿気と害虫から食物を守るため、ドライアイスと完全密封容器を使って脱酸する方法を知り、以来この問題に悩むことはなくなりました。この方法は、高野豆腐などの酸化する食品にも向いています。

回転の問題も丈夫なスチール棚(一面200キロに耐える)を購入し、小物は棚の奥行きに合わせた整理箱に入れ、必要なときはその箱を引き出すだけで奥の物が取れるようにしました。すべての食品がひと目でわかり、すぐに取り出せるようにすることによって貯蔵品の回転も簡単にできるようになりました。

人間の身体はビタミンが不足しただけでも正常に機能しなくなり、病気にかかりやすくなると言われています。そこで栄養的にもバランス良く必要なものを貯蔵するために、栄養成分表を購入しました。缶詰などの栄養価もひと目でわかり、とても重宝しています。栄養価の高い穀類を貯蔵したり、ミネラル確保のために海藻などの乾物を取り入れ、ビタミン確保のためにはトマトジュースをはじめ、各種の野菜の缶詰を貯蔵するようにしています。また、たんぱく源としては肉の代用品となる各種のグルテン製品の缶詰や乾燥した大豆たんぱく製品も我が家ではすでになじみの品となりました。

食糧貯蔵について導きを求めるとき、主は実に多くのことを教えてくださいました。まず現在家族が食べている食糧1年分のすべてを分類別に書き出し、表を作りました。次に同じ要領で貯蔵向きの食品を書き出し、別の表を作りました。このふたつの表を基に貯蔵中心の食品一覧表を作ることができました。そして、現在家族が食べている各々の食品の年間消費量(1カ月の消費量の12倍)を算出し、一覧表に記入しました。小さい子供の成長に合わせて量と栄養摂取量の見直しもします。我が家で作った一覧表には期限を記入する欄があります。今後購入する物

については計画を立て、購入する年月日などを記入していきます。また食品の在庫を容易に管理するためにチェック欄も設けました。

ニーフアイに段階を追って船の作り方を教えられたと同じように、主は貯蔵の行ない方について私にも段階を追って教えてくださいました。

このように貯蔵を進めていく中で私を支えているのは、信仰です。アダムが示した模範の中にそのような信仰を見ることができます。「主、彼らに誠命を下して宣いけるは、主なる汝らの神を礼拝し、主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべしと。アダムは主の誠命によく従いぬ。多くの日を経て、主の天使一人アダムに現れて言いけるは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。」(モーセ5:5-6)

このような美しい信仰に触れるとき、私の心は希望に満たされます。真の信仰はごく一般的な生活の中からは、はぐくまれにくいものです。そのような信仰をはぐくむため、神様は人が考えつかないような戒めを与えられます。食糧貯蔵もまさしくそれらの戒めのひとつであることを、聖霊を通して、また数々の経験を通して私は知りました。「われにかかわるすべては霊のことなり。われは何時たりとも、いまだ嘗て俗世の事にかかわる律法を与えたることなし。」(教義と聖約29:34)

神様は、アダムをはじめすばらしい僕たちに戒めを与えて試されたと同様に、今日の私たちにもこのような特権を与えてくださったのです。(どうのもと・まきこ 1958年生まれ)

ソビエト連邦で 初の教会支部公認

1990年9月19日、ソビエト連邦宗
教評議会の非ロシア正教会部門
を担当するエヴゲーニ・V・チェルネ
ツォフ氏は、教会の代表者に向けて、
9月13日付でレニングラード支部の設
立が公認されたと発表した。

ソ連内には現在はまだ伝道部は置か
れておらず、レニングラード支部はフ
ィンランド・ヘルシンキ東伝道部バル
チック地方部の管轄するユニットとな

る。そのほかソ連南部の地域にも少数
の末日聖徒が住んでおり、そこはオー
ストリア・ウィーン東伝道部の管轄と
なっている。

ソ連の現行の法律では、宗教団体は
各教区ごとに登録するよう規定され、
ひとつの行政地区に住む会員数が20名
を超えると、登録の申請ができるよう
になっている。ソ連における教会の伝
道活動は、限られた枠内で押し進めら

れており、地元の会員の家で伝道や礼
拝などが行なわれている。

ソ連で教会の活動が承認されるに至
った第一歩は、1987年6月、十二使徒
定員会会員ラッセル・M・ネルソン長
老およびヨーロッパ地域会長会長の
ハンス・B・リンガー長老が、ソ連の
官僚と初めて接触したことに始まる。
それ以来、モスクワとレニングラード
で様々な会合が開かれてきた。

冒頭の発表があった会合には、ソビ
エト機関誌「モスクワニュース」や
「科学と宗教」の代表者も出席して
おり、ソ連の人々は福音を受け入れる
だろうかという記者団の質問に答えて、
リンガー長老は力強くうなずき、「私
たちは皆同じように天父の霊の子供な
のです」と述べた。

末日聖徒による ルーマニアの救済活動

ヨーロッパ全域の教会員たちによ
って行なわれているルーマニア
の救済活動は、人々の生活に良い影響
を及ぼしつつある。

今年の2月、十二使徒評議員会会員
のラッセル・M・ネルソン長老と、七
十人定員会会員でありヨーロッパ地域
会長会会長を務めるハンス・B・リン
ガー長老、そしてドイツ・フランクフル
トの地域管理本部にある管理監督会
事務所の代表者であるペテロ・ベルク
ハーン兄弟らがルーマニアを訪れたこ
とから、福祉活動を行なうことが決ま
った。

革命によってルーマニアの独裁者が
処刑された直後、ヨーロッパ地域会長
会はヨーロッパの末日聖徒たちに「惜
しみない援助の手をルーマニアに差し
伸べる」よう呼びかけた。

「世界各国、特にヨーロッパの聖徒
からの反応は驚くべきものでした。金
銭、物資、奉仕のどの面をとっても、
私たちの期待をはるかに上回るもので

す。トラック何台分もの救援物資がす
でにルーマニアに送り込まれていま
すが、ヨーロッパ各地から寄せられた
援助の品々は今もなお私たちのもとに
届けられています。憐れみの精神に国境
はないことをこの救済活動は物語っ
ています。」ベルクハーン兄弟はこう語
る。

ヨーロッパ地域会長会は、地域福祉
委員会の管理の下にルーマニア救済基
金を創設するよう指示を与えた。同委
員会は、アイザック・ファーガソン兄
弟を教会本部からのアドバイザーに迎
え、ソルトレークシティの中央福祉
委員会とも密接な調整が行なわれてい
る。

「ルーマニア救済基金を最初に設け
たとき、この革命で最も不遇な状況に
追いやられた犠牲者は、子供たち、特
に孤児たちであるという点で、私たち
は意見が一致しました」とベルクハ
ーン兄弟は語る。「そこで私たちは、孤
児や児童福祉施設にいる子供たちに的を

絞って活動を開始することにしました。
状況を把握し計画を立てるために、専
門家からなる調査団をルーマニアに派
遣しました。こうして必要な項目が決
定すると、私たちはヨーロッパ中の聖
徒たちに現金や物資の寄付を要請し
たのです。教会員から惜しみない寄付
があったばかりか、教会員でない人々や、
教会とは無縁の数多くの企業まで参加
してくれました。」

こうして行なわれたヨーロッパの末
日聖徒による救済活動は、ルーマニア
で歓迎され、多くの実を結んでいる。

救済委員会は、現金や物資による援
助に加えて、児童の福祉や発達に関す
る専門知識と、それを実行に移すため



ブカレストの聴力障害をもつ学生を診
察するルンド博士

の技術援助も急務であるとの結論に達した。ソルトレークシティーではさっそく、職業訓練学校に通う聴覚障害者たちの診療のために、末日聖徒による派遣団が組織された。

ヨーロッパ地域福祉委員会は、ブカレストにある職業訓練学校を、救済活動を行なう最初の候補のひとつに選んだ。この学校には、聴覚障害を持つ十代の学生が200人余り通っている。ヨーロッパ地域福祉委員会が派遣した末日聖徒の医療グループの診断によって、学生のうち160人は補聴器の使用が有効であることが判明した。ある若者などは補聴器をつけるや否や、手を打ち鳴らし、躍り上がって喜びを表わした。十何年振りかで音を耳にしたからである。

派遣団を指揮したのは、ソルトレークシティー在住の耳鼻咽喉科医グレン・K・ルンド兄弟で、妻のルンド姉妹も、必要な医療事務を処理するために派遣団に加わった。

ルンド医師の一行は、検査用の医療機器、医薬品、および補聴器を200個持参した。「ルンド医師たちは、地元ルーマニアの医師に医療器具の使用法や補聴器の調整、着装的仕方も指導してくれました。将来はルーマニアに補聴器だけ送って、人を派遣しなくても済むようになるでしょう。ただ、フォロー



孤児院の子供たちを世話するルーマニア派遣団のルンド姉妹

アップのために今回の派遣団の中の少なくともひとりを、もう一度ルーマニアに送る計画はあります。」ベルクハーン兄弟はそう語る。

ベルクハーン兄弟によると、ルンド医師を団長とする今回の医療チームの派遣は、ルーマニアの事態を憂慮する教会員たちが現在企画している活動の一部にすぎないという。「私たちは、広くヨーロッパ全土の企業と連絡を取っ

ています。その多くは、医療品などを寄付してくれた会社ですが、中には各種の器材をかなり廉価で供与してくれたところもありました。」

ソルトレークシティーの教会本部ならびにフランクフルトのヨーロッパ地域管理本部の指導者らは、ルーマニアの救済活動に参加してくれた教会員たちに感謝の意を表明している。

建物予防維持管理プログラム

建物維持管理の新たな方法として、予防に重きを置いた建物予防維持管理プログラムが1989年の後半から大管長会と管理監督の指示により実施されてきた。このプログラムは今のところ合衆国、カナダが対象となっているが、教会員が維持管理に積極的に奉仕するという姿勢は日本においても十分に対応し得るものである。以下は、「チャーチニューズ」に掲載された記事の抜粋である。

集会所を美しく保つために教会員にできる事柄

教会堂の維持管理に関する新たなプログラムが導入されましたが、教会員は建物を美しく保つために、以下にあげる17の事柄を行なうとよいでしょう。会員たちがこれらの事柄を行なうならば、働く管理人は、貴重な時間を細かい作業に費やすことなく、より大きな清掃業務に費やし、予防に重きを置いた維持管理に主力を注ぐことができます。

1. 集会や活動の終了後、掃除機をかけたり、床を掃いたりして部屋を清掃し、台所などもきれいに片付け、ごみを適切に処理する。日曜日の集会後は、あまり大がかりな清掃をする必要はないが、会員たちは日曜日のスケジュールの合間に建物内をいつもきちんと片付け、必要に応じてトイレの紙を補充するなどしておく。

2. 月曜日から金曜日までの管理人の通常の勤務時間外に集会や活動を行

なう場合には、終了後、日曜日の使用に備えてきちんと片付けておく。

3. 集会所で集会や活動を行なった後、終了後、必ず鍵をかけておく。

4. 日曜日にも、使用したテーブルやいすを片付ける。

5. 窓やドアが締まっているか、夜確認する。

6. パブテスマフォントを使用した後は、水を流し、清掃しておく。

7. 聖餐台をきれいにしておく。

8. 音響装置やビデオ装置などを調節して安全に保管しておく。

9. 照明具、音響装置、オルガンなどの自動的に電源が切れる仕組みになっていない機器類は、使用後スイッチを切っておく。

10. 集会所の使用は、適切な方法で管理するように努める。

11. 教会活動以外であっても、結婚披露宴などの承認された目的で集会所を使用する場合は、後片付けと清掃をきちんと行なう。

12. 調理用レンジ、オーブン、冷蔵庫、食器類など、台所の中を清掃する。

13. 図書室や書記室などを整理整頓しておく。

14. 庭や花壇の手入れをする。(これは基本的な造園設計や通常の管理人プログラムの一部ではない)

15. 建物の周囲の敷地を清掃する特別プロジェクトに参加する。

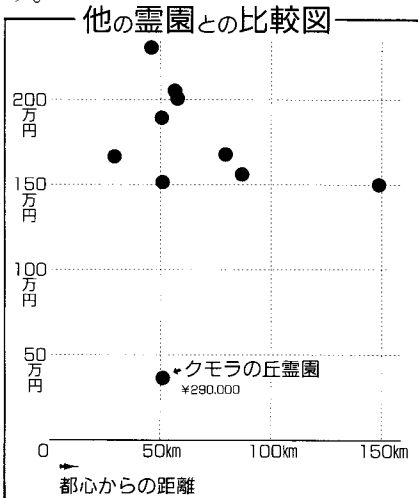
16. 通常の管理人の勤務時間外に集会や活動を行なう場合には、建物の前の歩道の雪かきをする。

17. 自分たちにできる範囲で、簡単な修理を行なう。

1991年度 「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ

所在地：埼玉県入間郡
毛呂山町長瀬1313

「クモラの丘霊園」分譲の1990年度募集は、本年12月31日で締め切り、来年度の新しい募集は次のとおり行ないます。



1. 墓地永代使用料
支払い方法
2. 墓地管理料
3. 申し込み方法
4. 申し込み期限
5. 墓所の指定
6. 初回金および管理料の振込先
7. お問い合わせ先

1区画 290,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金6,800円、以降毎月4,800円59回払いの無利子分割払いとなります。年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします)

以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。

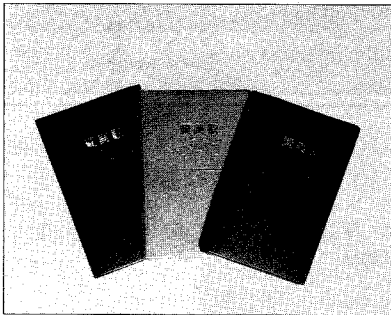
- (1)クモラの丘霊園使用申し込み書
- (2)住民票
- (3)クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
- (4)銀行自動振替手続き書類

1991年1月1日より1991年12月31日まで
申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。

三和銀行青山支店 普通預金口座 219499
クモラの丘霊園 代表 北村 正隆
〒106東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(440)2351(代)

ブックセンターからのお知らせ

新刊の紹介



- ①小型賛美歌(青, 茶, えんじの3色)
14×9cm 価格 各400円
PBMU0687JA 青
PBMU0665JA 茶
PBMU0698JA えんじ



- ②ビデオカセット「天父の計画」
ITEM 53031 300 価格1,500円
(人生の目的や真理を知る方法がひとりの青年の話と音楽を通して紹介されています。29分)

価格変更のお知らせ

既刊のビデオカセットの価格が12月1日より下記のとおり変更になりました。

- ビデオカセット① VVVH2222JA
旧価格4,500円 → 新価格2,500円
(「幸福の探求」「わが栄光」「イエスの歩まれた道」「堅固な家庭」「ジョニー・リンゴー」「山の強さのため」の6編。120分)
- ビデオカセット② VVVH2233JA
旧価格4,500円 → 新価格2,500円
(「最初の示現」「古代アメリカは語る」「3人の見証者」「耳をすまして」「価値ある者」の5編。120分)
- ビデオカセット③ VVVH2244JA
旧価格4,000円 → 新価格2,500円
(「モルモンとは」「全世界に出て行け」「天の窓」の3編。90分)
- ビデオカセット④ VNVV0995JA
旧価格4,500円 → 新価格2,500円
(「若人のために」「神権の回復」「聖なる宮居」「我ら死すとも」の4編。110分)
- 上記はすべてVHS版です。ベータ版は同価格にて受注販売になります。

①は携帯用に、②は伝道や教会の根本的な教義を説明する際にご利用ください。また、クリスマスプレゼントにも最適です。

ろうあ者大会開かる

福音の中におれら何を聞くや。喜びの声なり。

—教義と聖約128:19

9月15、18日の両日、横浜ステーキ部主催の「ろうあ者大会」が横浜ワード部で開かれた。ろうあ者大会としては7年ぶりに開かれた今大会には、横浜ワード部の会員に加えて全国から約120人が参加し、信仰と証を強め合うとともに楽しい時間を過ごした。

神殿参入

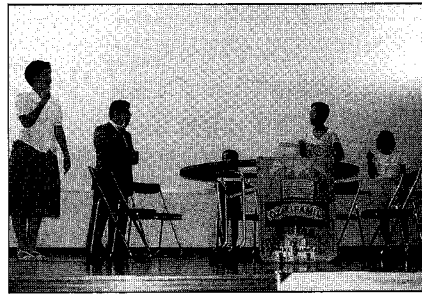
大会初日、東京神殿ではろうあ者の参入者のためにエンダウメントの儀式に手話通訳がついた。



タレントショー

タレントショーでは手話による劇、家庭の夕べ、コーラスなどの発表があった。また、斎藤由貴姉妹が参加して、ろうあ者だった祖父母との幼いころの思い出などを手話で話した。家庭の夕べを披露した家族は「同じろうあ者から、家庭の夕べを開くのはむずかしいという話をよく聞くので、自分の

家庭でしているものを紹介しました。後で皆から感謝されたり、いろいろな意見を聞くことができうれしかったです」と語った。



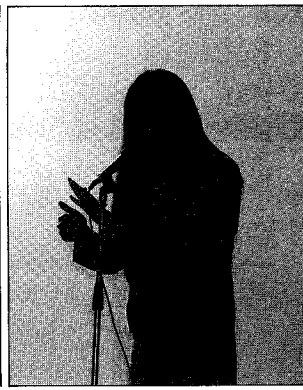
親睦会

開会行事後開かれた親睦会では、自己紹介とともに、各地の名物、特産物が紹介された。



写真説明

- 左上：神殿に参入する大会参加者
- 左中：宿泊希望の参加者に横浜ワード部での受付時に、宿泊先となる会員の名前が告げられた
- 左下：親睦会で、地元の名物を紹介する北海道の兄弟姉妹
- 中央上：タレントショーを楽しむ参加者
- 中央下：手話コーラス
- 右上：手話による家庭の夕べ
- 右下：子供のころの思い出を語る斎藤由貴姉妹





神権会、扶助協会

2日目の安息日は、合同で開会行事をした後分級し、それぞれのクラスに手話通訳者がついてレッスンが行なわれた。昨年改宗したある姉妹は、「手話ができる人がワード部にいないために、安息日のレッスンの内容がわかりにくいのですが、この大会では、すべての集会に手話通訳がついたことに感激しました」と語った。



手話講習とセミナー

聖餐会后、ろうあ者はセミナーに、そのほかの参加者は手話講習に参加した。セミナーでは、信仰生活を送るうえでの問題点と、それをどのように克服したかが話し合われた。職場や家庭で上手に説明できなくて、知恵の言葉を守るだけでも苦労している会員もいた。また、教会でもっと手話で話しかけ

てほしいと思っている人も多くおり、自分のユニットで手話講座を開いている人もいた。

写真説明

左上：扶助協会のレッスン
 左下：聖餐会で話す堀内神殿長(右)と手話通訳をする田中ステーク部長
 中央上：手話講習初級クラス
 中央下：ろうあ者大会の旗に寄せ書きをする
 右上：セミナーでお互いの経験を分かち合う
 右下：大会後も名残は尽きない



聖餐会

聖餐会では、ウォーカー伝道部長や堀内神殿長夫妻などの話に続き、証会が行なわれた。「同じ障害を持っていても一生懸命信仰生活を送っている兄弟姉妹の証を聞いて、自分ももっと頑張らなければならない」と思ったと感想を述べた参加者も多くいた。



閉会セレモニー

最後に閉会セレモニーがあり、セミナー、手話講習で話し合ったこと、学んだことを報告して閉会した。参加者は、次回の大会での再会を約束し、この大会で得たきずなと証を胸に帰路についた。

7年前のろうあ者大会に出席

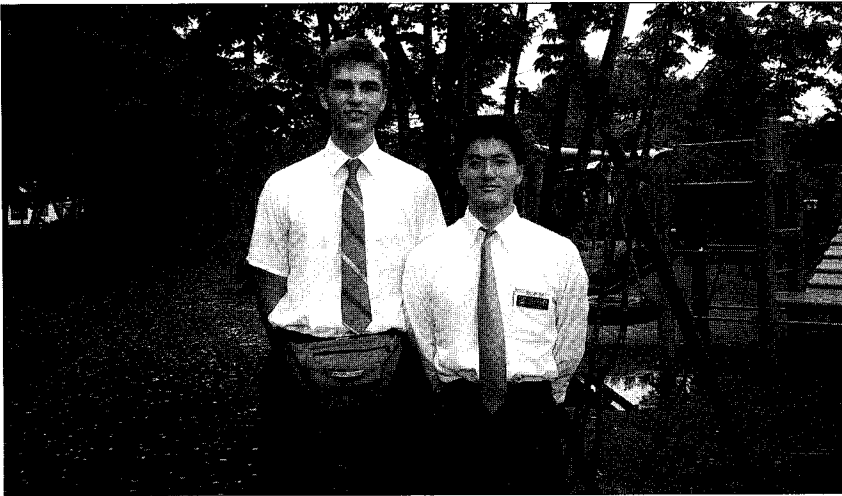
した会員は皆、今回の大会の参加者の多さに驚いていた。これは健聴者の会員の参加が多かったことも起因している。彼らはこの大会を通して、もっと手話を勉強して、ろうあ者の兄弟姉妹と話がしたい、役に立てるようになりたいと話していた。



家族の証

親展「お父さんへ」

札幌伝道部専任宣教師
泉谷聡



同僚のシアーズ長老と共に

1990年7月2日

お父さんへ。

いつもお手紙ありがとうございます。きょうはなぜか、お父さんに手紙を書きたいという気持ちがすごく強く起こったので、このように手紙を書いています。

お母さんからの手紙によるとお父さんはこの前、神殿に入ったそうですね。久し振りの神殿参入はどうでしたか。私も伝道に出る前、神殿に入りました。まだまだ神殿の儀式を理解できていないわけではありませんが、何か特別に神様の存在を感じさせてくれるような儀式でした。お父さんがそのようにして神殿に入ったり、インスティテュートの話などを手紙に書いてくれたりするのは、私にとってはとてもうれしいことです。また、お父さんからの手紙を読むときに、私の霊はうれしくて躍るような気持ちがするのです。そして本

当にいつも感動しています。伝道をするための、元気の源になっています。

お父さんからそのような手紙をもらうと、いつも以上に元気が出るのはなぜかと考えていたのですが、最近少しその理由がわかってきました。私が毎日伝道して人々に伝えているメッセージの中に、『永遠の家族』と『人生の目的』があります。もし自分がこのメッセージに対して少しも希望を持ってないとしたら、もはや伝道することはできなくなるでしょう。しかし、今まで福音について少しずつ学んできて、自分がこのメッセージに対してとても希望を持っていることに気がついたのです。それでお父さんが書いてくれる手紙を読むと、大きな喜びがわいてくるのです。

でもときどき私はこのように思います。いったい私はどれくらいお父さんのことを知っていて、どれくらいお父さんについて理解しているのだろうか、

と。たった4人しかいない家族だけだと、お互いにどれくらい理解し合っているのでしょうか。最近、少しそのようなことについて考えました。お父さんはどうですか。私はお父さんも、お母さんも、お姉ちゃんもとても大好きです。永遠に暮らせるなら、これほどうれしいことはありません。もちろん将来自分と結婚する妻が、一番大切になるのでしょうか。私がお父さんやお母さんのことを完全に理解するためにはもっと人生の経験が必要でしょう。でもお父さんやお母さんが私やお姉ちゃんのことを理解するのはそれほどむずかしくないと思います。そして子供たちに幸福になってほしいと望んでいることでしょうか。私にとっての幸福は、妻と共に昇栄することです。お父さんやお母さん、お姉ちゃん、それにたくさんの友達と共に昇栄することです。そのために、この約70年間という人生をどのように、また何を優先して行なわなくてはいけないか考えています。

お父さん、私はこの人生をお互いに助け合って昇栄への道を歩みたいのです。私の信仰が弱くなったときには、どうかお父さん、私を助けてください。この世で言うっておかないと、お互いに肉体のある今、確かめ合っておかないと、きっと後悔するだろうと思って親展で手紙を書きました。これからも頑張らしましょう。またお父さんの本心について聞けたら、もっとうれしく思います。聡。(いずみたに・さとし 1970年生まれ、町田ステーク部町田第2ワード部出身)

愛する息子よ

町田ステーキ部町田第2ワード部
泉谷巖



1990年7月16日

愛する息子よ。

毎週、すばらしい伝道の話を中心にして手紙で伝えてくれるので、私たちはいつも霊的に満たされて楽しく平安な毎日を過ごしている。あなたの手紙を読んでいると、本当に主は生きておられ、私たちが愛しておられることを強く心に感じる。

5年のお休みを経て教会に出席できるようになった私が最初になければならないことは、福音の勉強だった。日本の教会の教育プログラムは飛躍的に進歩し、若い会員たちはセミナーやインスティテュートを通してどんどん成長している。聖典の知識面で、自分がかかるに取り残されていることを知ったのだ。知識なくしては救われない。さらに、福音についての正しい知識を持つことは、まさしく神の武具を身にまとうことになる。世にあっては、身を守る武具が必要なのだ。

そのような訳で4月から、あなたのような若い方々と一緒に渋谷のインスティテュートハウスで講義を受けることにした。会社の帰り道、渋谷でちょっと途中下車するだけでよいというものなんとも恵まれた、ありがたいことだ。今、学生時代を思い出して、楽しく授業に出席している。私が改宗した30年前は、このように立派な先生はおられなかった。聖典研究といっても、いつもよくわからない者ばかりが集まって、わからないという結論で終わっていたように思う。

先日こんなことがあった。インスティテュート大会が吉祥寺の教会で行なわれたとき、本部からブラッドショー兄弟とバル・ドーソン兄弟が来られて講演があった。私とママは出席してお話を聞いたが、次の日の日曜日に教育部の部長が「バル・ドーソン兄弟が壇上でお話をしながら感じておられたことだが……」と私のことに触れ、「あの兄弟(私のこと)に靈感を感じる。ぜひそのことを彼に伝えてください」と言われた、と話してくださった。私はこのことを聞いて、いたく感動した。そのとき、私は思い出していた。あなたも覚えているだろう、有名な詩「Foot Print」のことを。主は愛の深いお方であり、聖霊が私に寄り添うように、守るように、包み込むように、私と共にいらっしやるのを感じたのだ。このとき、私はまことに久し振りのことではあるが、神殿に入る決心をした。6月の私の誕生日に、愛するホームティーチャーのサポートのもとに、まさしく20年振りに神殿に参入したのだ。うれしいことに神殿長は私たちが札幌で生活していたころ、札幌伝道部長をしておられたなつかしい堀内神殿長だ。私は1980年の神殿の献堂式に出席しているので、ちょうど10周年に当たる1990年のこの年に、神殿に参入したのだ。

息子よ。今さら、あれもあった、これもあったと私

が言うのはあまりにも弁解めいていて、思い出すのも心苦しいし、あなたも私の弁解を聞くつもりはないだろう。あなたは、今、喜んでくれているのだから、私も素直にあなたと共に喜ぼう。私の心は変わった。主は私を愛してくださり、私の家族を愛してくださり、私たちの生活を整えてくださった。私たちにまた平安が来て、再び福音について家族4人で語り合うことができる。主の愛があまりにも深いので、私はどのように主にお礼を申しあげていいのか戸惑っている。

札幌には私たち家族と共に教会で頑張ってきた古い会員の家族や、あのころとても熱心だった神権者の何人かがお休みしていると聞いている。あなたの伝道地が北海道であったことも主の愛から出ていることだ。どうか、お休みしている古い家族や兄弟たちに声をかけ、一緒にまた頑張ろうと伝えてほしい。そして、主の愛と祝福とあふれるばかりの恵みを、愛する私たちの子孫にも受け継いでいこうじゃないか、と伝えてほしい。

間もなく北海道に、短いがすばらしい夏がやって来る。伝道中は特別に主が守ってくださるが、しかし、どうか戸外での伝道には事故のないよう、特に注意してもらいたい。私たち夫婦はあなたや神戸で伝道中のお姉ちゃんのためにも、心から主にあなた方の安全をお祈りしている。父。(いずみたに・いわお 1938年生まれ、高等評議員)



10月に召された専任宣教師

137期生 12人



後列左から1-6, 中列左から7-12, 前列左から14-18

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 新垣盛綱	沖縄那覇S/普天間W	東京北伝道部
2. 三宅定雄	東京東S/牛久W	神戸伝道部
3. 浦野雅子	東京東S/小岩W	名古屋伝道部
4. 河上正子	東京北S/浦和W	仙台伝道部
5. 吉本利恵	札幌S/旭川第2W	大阪伝道部
6. 川原由佳子	札幌S/札幌東W	福岡伝道部
7. 池田隆浩	名古屋S/名東北W	岡山伝道部
8. 西原良男	広島S/五日市W	大阪伝道部
9. 西原キクノ	広島S/五日市W	大阪伝道部
10. 床次恵子	東京西S/国立W	名古屋伝道部
11. 長嶺伊奈子	沖縄那覇S/小禄W	仙台伝道部
12. 比嘉知子	沖縄那覇S/浦添B	名古屋伝道部

S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

お詫びと訂正

■1990年9月号ローカル5ページで紹介した大阪堺ステーク部泉南支部の電話番号は、0724-71-9763ではなく、0724-71-9363の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

■1990年7月号127ページで紹介した平吹勝長老の伝道地は、東京伝道部ではなく、東京南伝道部でした。お詫びして訂正いたします。

新役員の任命

1990年9月21日から1990年10月24日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 郡山地方部いわき支部
新支部長: 神尾茂
(前任者: 尾久幸男)
- 郡山地方部津若松支部
新支部長: 皆川秀夫
(前任者: 小池隆)
- 広島ステーク部岩国支部
新支部長: 藤川正信
(前任者: 大畑浩一)
- 岡山ステーク部福山支部
新支部長: 中野哲理
(前任者: 水田正)

名称変更

- ★名古屋ステーク部野並支部
(名古屋南支部から名称変更)
支部長: 塚原俊英
- ★大阪堺ステーク部泉南支部
(泉佐野支部から名称変更)
支部長: 中村和彦

編集室から

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶1991年3月号掲載分の締切は12月25日です。なお、投稿の際、必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただきますのであらかじめご了承ください。

▶あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(444)5264

見 よ、われは神の子イエス・キリストなり。われは天地とその中にある万物を造れり。われは最初より御父と共に在りき。而して今、われは御父に在り、御父はわれにまします、御父はすでにわれによりてその御名の栄えを示したまえり。
(III ニーフアイ 9 : 15)